

第3回(仮称)第3次都心まちづくり計画検討会

【目次】

- | | | |
|----|--------------------------|-------|
| 1 | 第2回検討会・各部会のふりかえり | ……p3 |
| 2 | 『(仮称)第3次都心まちづくり計画』事務局骨子案 | |
| 3章 | 3.1 目標 | ……p12 |
| 4章 | 4.1 目標の実現に向けた取組の方向 | ……p16 |
| | 4.2 基本構造の強化に向けた取組の方向 | ……p44 |
| 6章 | 取組の進め方 | ……p54 |

2025年2月27日

札幌市 都心まちづくり推進室



◎本日、ご議論いただきたいこと

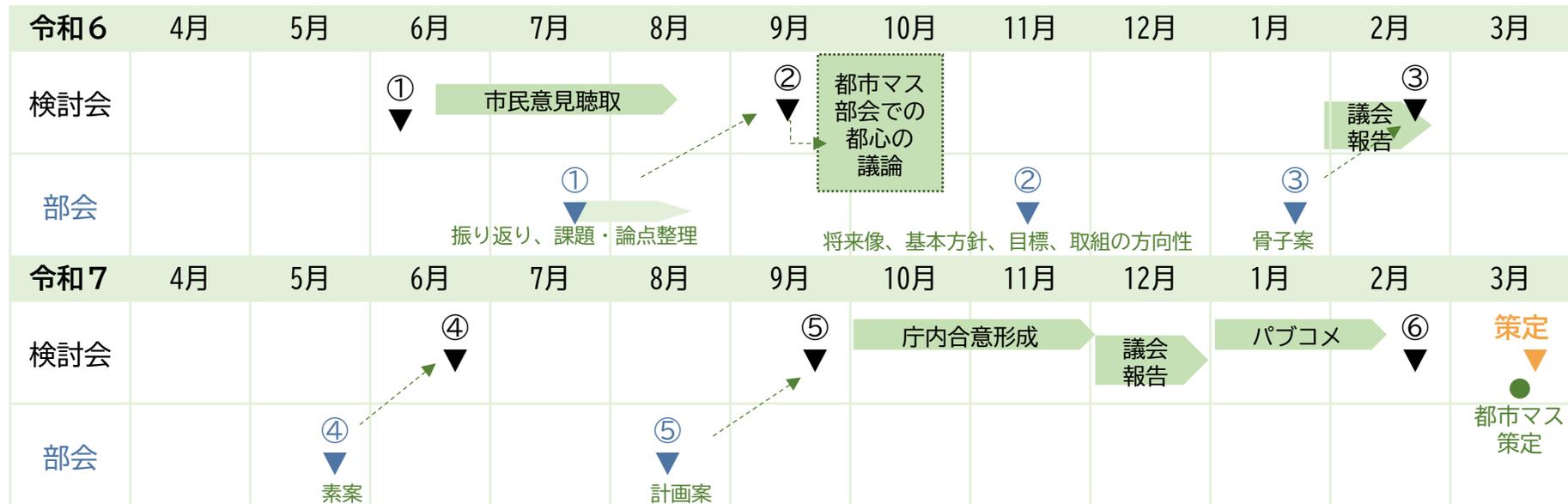
論点1 目標の実現に向けた取組の方向について

論点2 骨格構造の強化に向けた取組の方向について

論点3 取組の進め方について

1 第2回検討会・各部会のふりかえり

(1)スケジュール・進め方



検討会での検討テーマ（案）

令和6年度	第1回	経緯、論点整理、進め方
	第2回	目標、将来像、都心の構造の整理
	第3回	<u>取組の方向、取組の進め方</u>
令和7年度	第4回	重点的に進める取組、指標、素案
	第5回	計画案、計画策定後の主な取組
	第6回	最終案、計画策定後の主な取組

部会での検討テーマ（案）

令和6年度	第1回	課題認識、見直しの視点の整理
	第2回	基本方針、目標、取組の方向性
	第3回	骨子案
令和7年度	第4回	素案
	第5回	計画案、計画策定後の主な取組

※R7の
下線は
変更部
分

1 第2回検討会・各部会のふりかえり

(2)第2回(仮称)第3次都心まちづくり計画検討会(令和6年9月17日開催)での主な意見

論点	委員意見の抜粋	主な対応
都心まちづくりの意義	<ul style="list-style-type: none">● 発展前提で議論すればいいのか。都心はこれからどのようなになれば成功なのか。● 人口減少や自動運転を考えると、コンパクトシティや都心に来る郡部の人を考えなければならない。● 市域全体のなかでの都心の位置付けを確認したい。	<ul style="list-style-type: none">● 「序章」にて『都心まちづくり計画策定の背景』を整理
計画区域、周辺との関係	<ul style="list-style-type: none">● 都心のひし形の区域とエネルギーマスタープランでやってきた区域の整理は非常に大事。● ひし形で明確に区切ることが発展性を阻害する要因にもなり得る● ひし形の外側や市全体とどう絡み合っただけで更に都心をよくしていくかが大事	<p>(下記)</p> <ul style="list-style-type: none">● 「1章」にて『計画区域』及び『進捗管理区域』を整理。ひし形区域に限らない柔軟な対応を明記

『1章 計画の目的と位置付け』

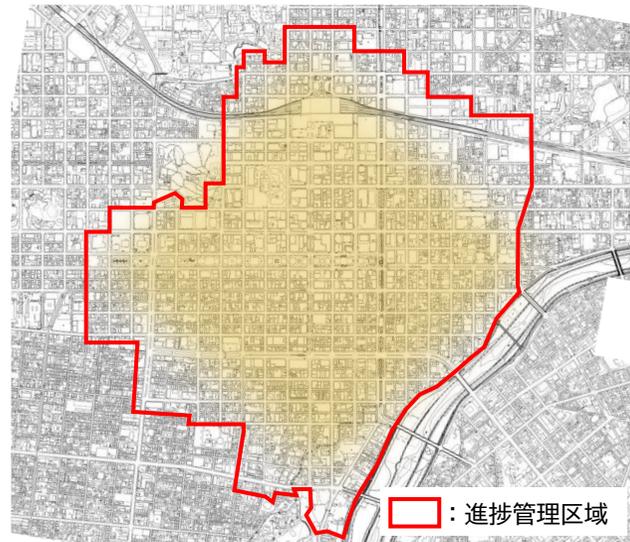
計画区域

- ✓ 本計画の対象区域は、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンに示される都心の範囲を踏襲し、計画対象区域とします。
- ✓ なお、都心周辺の高次機能交流拠点の取組と連携を図るなど、都心の機能強化につながる取組については、計画対象区域に関わらず柔軟に対応していきます。
- ✓ 数値管理を行っていくため、エリアを明確に定めた進捗管理上の区域を別途設定します。
- ✓ 進捗管理を行う区域は、立地適正化計画において都市の魅力を高める都市機能等の集積を図る区域として定められている「都市機能誘導区域(都心)」の区域を踏まえて設定します。(苗穂エリアを除く)

〈計画対象区域〉



〈進捗管理区域〉



1 第2回検討会・各部会のふりかえり

(2)第2回(仮称)第3次都心まちづくり計画検討会(令和6年9月17日開催)での主な意見

論点	委員意見の抜粋	主な対応
2章 課題	<ul style="list-style-type: none">● 課題の抽出が唐突でロジック整理が必要。課題が足りない気がする。● 今までやってきたものは何が課題になっているのか。● 札幌都心固有の課題は何か。● ほぼ現状の課題を挙げており、将来を見据えた課題ではないかもしれない。	<ul style="list-style-type: none">● 「2章 都心の現状と課題」を再整理 (P6)
3章 理念と目標	<ul style="list-style-type: none">● 目標は変わっていくところもある。社会的課題にまちがどう対応していくのか、その方向性を示すことが大事。● 目標の間を結んでいる線とそのコメントが分かりにくい。● 課題を解くために3つの目標を関係させて考えないといけないことがみえてこない。	<ul style="list-style-type: none">● 各部会での意見もふまえて文言修正
3章 都心の基本構造	<ul style="list-style-type: none">● 経済をどう強くしていくかを書き加えることが大事● 新産業の育成も大事だと思うが、何に軸足をおいていくのか、北海道・札幌の強みなのかをしっかりと考えるべき。● 新幹線をどう考えていくのかが見えてこない。観光をもっと考える必要がある。● 今後北海道はGXを軸に環境金融都市を目指すという意味で人を呼び込むことをうたっている。新たな要素として特区指定で何をやっていくのかを書けるとよい。	<ul style="list-style-type: none">● 「目標1」にて経済をけん引する都心の役割を整理
3章 都心の基本構造	<ul style="list-style-type: none">● 骨格軸がこれからなぜ必要なのだろうか。これから20年も同じでいいのか。次の計画でも続けることができるのかという議論が必要ではないか。● 軸や拠点のフラットな評価があった方が分かりやすい <ul style="list-style-type: none">● レイヤー間の関係、レイヤーがどうつながるのかを語れなければいけない。● 意図をもって集約させる、機能集約・誘導の視点。● 軸や拠点から外れた部分に都市の魅力は残っている。● 自然環境の視点、オープンスペース・グリーンインフラの位置付けも必要。	<ul style="list-style-type: none">● 「3章3.2 都心の基本構造」にて骨格構造の考え方を再整理● 各部会でレイヤーを整理● 「2章 都心の現状と課題」でゾーン特性を整理

第2章 現状と課題 (3) これからの都心まちづくりの課題

背景
(社会経済状況、現行計画ふりかえり、市民・来街者の意向、委員意見等から整理)

- GX金融・資産運用特区の指定
 - 都市開発と産業施策を両輪で取り組む視点
 - 都心でしかできない消費活動や体験へのニーズ*
 - 都心、および周辺地域の人口増加
 - 北海道新幹線札幌延伸
 - 外国人市民・観光客の増加
 - バリアフリー化が不十分*
-
- 都心のみどりが充足していない*
 - <これまでの取組> 骨格軸の強化や回遊性の向上
 - 路上の駐停車により安全で快適な空間が阻害
 - 公共交通の乗降や荷さばきへの配慮
 - 気軽に自由に過ごせる場所の需要*
 - <これまでの取組> 多様な主体による柔軟な空間活用
 - 道路や公園等を活用する社会実験の増加
-
- 2050年カーボンニュートラル実現目標の設定
 - 気候変動による自然災害の頻発化・激甚化
 - 胆振東部地震・ブラックアウト
 - デジタル革新の加速
 - 再エネに由来する水素など新技術の台頭
 - ライフスタイルや消費行動の多様化など急速な社会の変化

*は市民アンケートによる

課題

- GXの取組等を踏まえた更なる高次機能集積が必要
- 観光やビジネスを含め多様な目的で訪れる人々の受入環境の充実が必要
- 魅力的なストリートを増やし回遊性を高める必要がある
- 公共交通や物流など様々な交通機能の維持・向上が必要
- パブリックスペースの更なる充実と柔軟な活用が必要
- 様々な技術革新を取り込みCO2排出量を更に削減することが必要
- 気候変動による災害リスクの高まりへの対応が必要
- 確実な進捗管理と機動的な見直しを行うことが必要

都心まちづくりの目標

目標1
多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流がうまれる都心

目標2
冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

目標3
気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靱化が進む都心

1 第2回検討会・各部会のふりかえり

(2) <第一部会>居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり検討部会

●第2回 令和6年12月4日 10時～12時開催

- ・目標、基本方針、重点戦略について
- ・アクションレイヤーの検討に向けた視点について

●第3回 令和7年2月12日 10時～12時開催

- ・計画骨子案(目標、基本方針、取組の方向)について
- ・重点取組路線の設定の検討
- ・評価指標について

⇒詳細は、本資料P14, 27～34に掲載しております。

<第2回検討会でお示した案からの変更事項>

「目標2：四季を通じて居心地が良く歩きたくなる都心」について

【主な意見】

- ① 浸透しやすい**フレーズ**や**絵**にするなど、多くの人に分かりやすくするとよい。
- ② 市民・来街者が何度も訪れたいということが、歩きたくなる都心ということだと思うが、それをどういう意味合いで書くか。

【主な対応】

⇒暫定案：冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

※市民、関係者にわかりやすいものを引き続き検討する。

骨格軸・展開軸について

【主な意見】

- ① **軸**などで**囲まれる街区**で大きなブロックを構成。これは歩行距離（約300m）としても適する。
- ② 軸が回遊動線としての**外郭をなす**と考えることもできる。
- ③ 各軸は、それぞれ異なる名称もあり、**異なる性質**を持つ。
- ④ 軸には、**両側のブロックを接着させるための役割**がある。**軸が魅力的になれば、隣接するブロックに回遊**していく。また、縦断面だけではなく、民地側も含めた**横断面**で考えるとよい。

【主な対応】

- ・骨格軸を何故定める（継承する）か、改めて再整理し説明を補強（P44）
- ・左記を踏まえ、重点取組路線を引き続き検討

1 第2回検討会・各部会のふりかえり

(3) <第二部会> 都心の脱炭素化に向けたエネルギー施策検討部会

●第2回 令和6年11月25日 14時～16時開催

- ・区域設定・都心の構造について
- ・目標実現に向けた基本的な考え方について

●第3回 令和7年1月31日 10時～12時開催

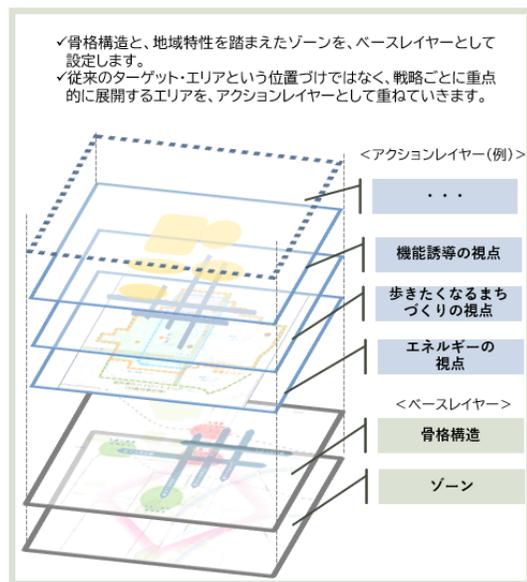
- ・取組を進めるエリア区分について
- ・エネルギー施策の取組の方向性について

⇒詳細は、本資料P15, 35～42に掲載しております。

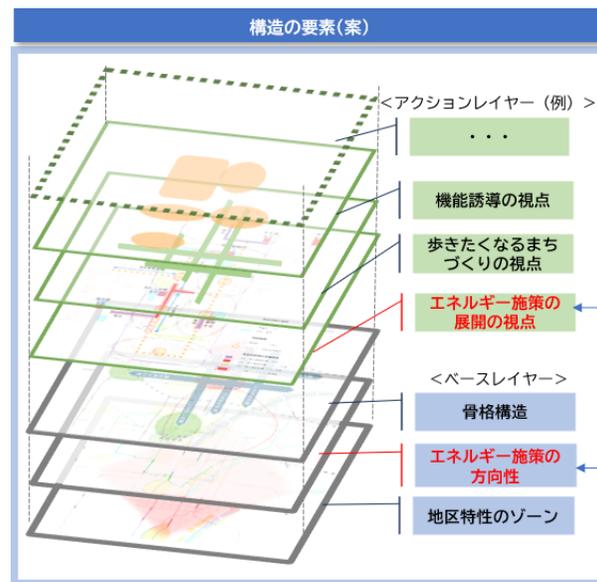
<第2回検討会でお示した案からの変更事項>

都心の構造（構造の要素）について

【当初案】



【変更後】



<エネルギーのレイヤー設定(案)>

<アクションレイヤー>

- ✓ベースレイヤーを踏まえ、具体的に展開するエネルギー施策を設定

※本日の議論も踏まえ詳細は次回以降提示

<ベースレイヤー>

- ✓エリア特性に応じたエネルギー施策の方向性を設定

次ページ

第3章 理念・目標と都心の構造

3.2 都心の基本構造

(2) エネルギー施策のエリア区分

ウ エネルギー施策のエリア区分の設定

土地利用やエネルギー利用の状況から得られた以下の視点を踏まえ、エネルギー施策を進めるためのエリアを設定。

➤ 札幌駅周辺から大通周辺にかけては今後も高度な土地利用が想定される

➤ 創成東地区（大通以北）において建替更新が増加傾向

➤ 都市再生の動向と連動した施策展開が必要

➤ 札幌駅北口から国道36号線にかけてCO2排出量が多い

➤ 熱供給ネットワークインフラの活用

エリア区分

脱炭素化・強靱化先導エリア

既存の熱供給ネットワークインフラの積極的な活用による脱炭素化の実現と強靱性の確保により、世界から信頼される持続可能な都心に向けた取組を先導するエリア

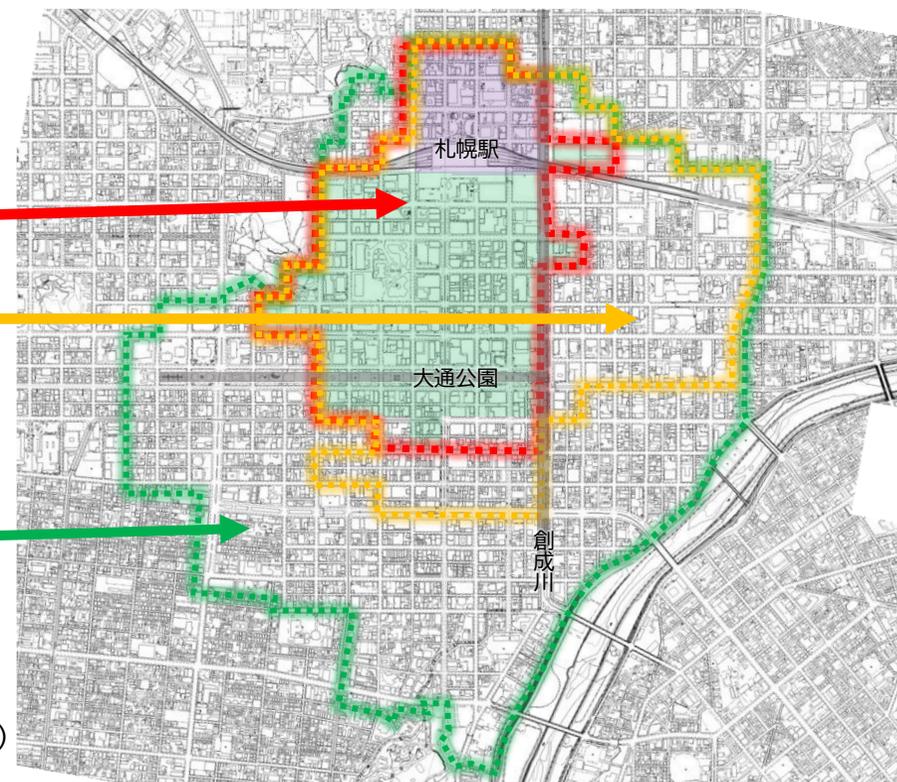
脱炭素化推進エリア

建物の更新や面的開発の機会を捉え、最適な手法の組み合わせにより脱炭素化を推進するエリア

脱炭素化促進エリア

都心のエネルギー利用に関する進捗管理を行う区域として、小規模な建物や既存の建物も含めて脱炭素化を促進するエリア

■ 熱供給エリア(札幌エネルギー供給公社)
■ 熱供給エリア(北海道熱供給公社)



2 計画構成案

序章 計画策定の背景

1章 計画の目的と位置付け

2章 現状と課題

3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の基本構造

3.1 理念と目標

〈理念〉

世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心

論点1

〈目標〉

部会で検討

目標 1

多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心

初出

目指す姿(成果指標)

目標 2

冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

目指す姿(成果指標)

目標 3

気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靱化が進む都心

目指す姿(成果指標)

論点2

3.2 都心の基本構造

再整理

部会で検討

(1) 骨格構造

都心まちづくりを牽引する中核的な軸と拠点



(2) エネルギー施策のエリア区分

地域特性に応じたエネルギー施策を進めるエリア



4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向

(1) 目標1の実現に向けた取組の方向

初出

(2) 目標2の実現に向けた取組の方向

(3) 目標3の実現に向けた取組の方向

4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

骨格軸

展開軸

交流拠点

展開拠点

5章 重点的に進める取組

初出

6章 取組の進め方

仕組みと体制

連鎖的な取組の展開

論点3

(本計画策定後に整理することを想定)

中期アクションプログラム 基本方針に即した具体的取組・施策

【取組ごとの活動指標を設定】

序章 計画策定の背景

1章 計画の目的と位置付け

2章 現状と課題

3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の基本構造

3.1 理念と目標

〈理念〉

世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心

〈目標〉

部会で検討

論点1

目標 1

多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心

初出

目指す姿(成果指標)

目標 2

冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

目指す姿(成果指標)

目標 3

気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靱化が進む都心

目指す姿(成果指標)

4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向

(1)目標1の実現に向けた取組の方向

初出

(2)目標2の実現に向けた取組の方向

(3)目標3の実現に向けた取組の方向

論点2

3.2 都心の基本構造

再整理

部会で検討

(1)骨格構造

都心まちづくりを牽引する中核的な軸と拠点



(2)エネルギー施策のエリア区分

地域特性に応じたエネルギー施策を進めるエリア



4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

骨格軸

展開軸

交流拠点

展開拠点

5章 重点的に進める取組

初出

6章 取組の進め方

仕組みと体制

連鎖的な取組の展開

論点3

3.1 理念と目標 (2)都心まちづくりの目標

✓「都心まちづくりの理念」の実現に向けた3つの目標を定め、各目標の関連性を意識しながら、札幌・北海道の魅力と活力の先導・発信を目指します。

目標1

多様なひと・もの・ことが
集まり新たな産業・文化・
交流が生まれる都心

北海道・札幌市の魅力と活力をけん引する高次の都市機能の集積を図り、多くの人が集い交流し、まちの価値を高めていく取組の好循環を展開することで、国際競争力を備えた都心を実現します。

成果指標《検討中》
都心における純付加価値額
都心における固定資産税額
都心が魅力的だと感じる市民の割合



【参考イメージ】大規模な建物が立地する都心

目標2

冬でも、誰でも、
まち巡りが楽しい都心

春季・夏季・秋季はもとより、積雪のある冬季においても、訪れる人それぞれが安心・快適に過ごせ、交流できる居場所があり、歩きやすく、街にみどりやにぎわい、変化が感じられ、居心地が良く、まち巡りを楽しめる都心を実現します。

成果指標《検討中》
主要地点における歩行者交通量
まち歩きが楽しめる通りや場所が多いと評価している人の割合



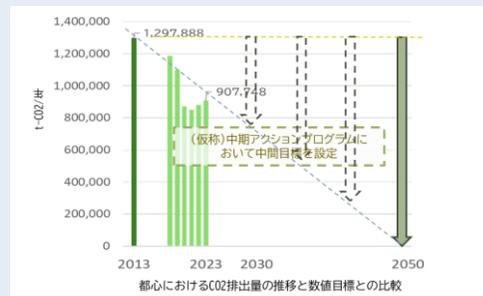
【図】将来像イメージパース

目標3

気候風土に即した
先進的な取組により脱炭
素化・強靱化が進む都心

札幌特有の気候や地域特性に応じたまちづくりとエネルギー施策の一体的な取組の展開により、将来に渡り発展し続けるとともに安全・安心な都市活動を支え、世界から信頼される持続可能な都心を実現します。

成果指標
2050年のCO2排出量実質ゼロ
《2013年度比で100%削減》



3.1 都心まちづくりの理念と目標 (2)都心まちづくりの目標

目標1 多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心

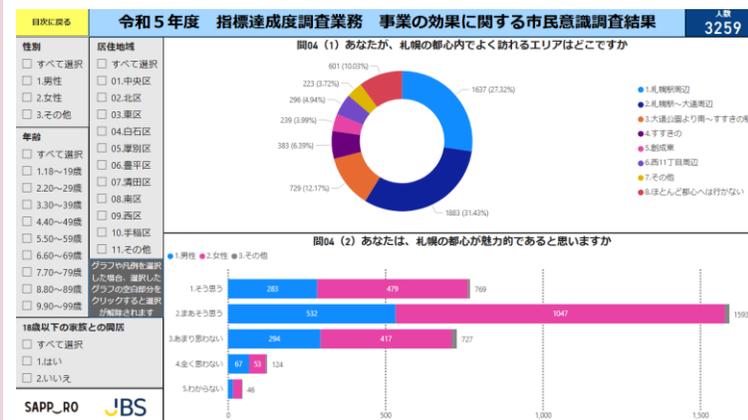
北海道・札幌市の魅力と活力をけん引する高次の都市機能の集積を図り、多くの人が集い交流し、まちの価値を高めていく取組の好循環を展開することで、国際競争力を備えた都心を実現します。

成果指標
(仮案)

- 経済活力を評価
 - 都心における純付加価値額《検証中》
 - 都心における固定資産税額《調整中》
- 魅力度を評価
 - 都心が魅力的だと感じる市民の割合

※下記の視点で引き続き検討を進める。

<その他、目標値とは別にモニタリングを行う指標候補(案)>
 地価 / 旧耐震建物の減少数 / オフィス床面積、空室率、賃料
 緑被率、緑視率 / 観光入込客数 / SNS(インスタ)投稿数



○都心における純付加価値額
 (より実態に近い推計を出せるよう検証中)
 ・全国的な公表値に基づくものであるため、他都市比較が可能

・経済センサス活動調査(5年ごと)における、市内中央区の純付加価値額に対し、事業所数または従業者数による按分により都心の推計値を算出する。

・付加価値とは、企業等の生産活動によって新たに生み出された価値
 <基本的な計算式>
 純付加価値額 = 売上(収入)金額 - 費用総額 + 給与総額 + 租税公課

○都心における固定資産税・都市計画税額
 (公表が可能か調整中)
 ・建物の建替等による投資効果や地価が反映されやすく、市民への還元がわかりやすい

・毎年の固定資産税額(土地・家屋)について、全市と都心(進捗管理区域)を比較。
 ・目標の設定に関しては、3年に1度評価替えがあるため、特に家屋に関しては3年ごとに低下する傾向を加味する必要がある。

●都心が魅力的だと感じる市民の割合
 ・市民の主観的評価はアウトカムとして必須
 ・ただし人流データやSNS投稿数等により、補強していく必要がある

・全庁的に「事業の効果に関する市民意識」をテーマに設問を構成した一斉アンケート調査である、「指標達成度評価」を活用。

毎年実施、回答数約4000
 調査対象：市内在住の満18歳以上の男女個人
 調査方法：広報さっぽろのお知らせに記載したQRコードまたは札幌市公式LINEより通知のお知らせに記載したURLからオンラインで回答

目標2 冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

春季・夏季・秋季はもとより、積雪のある冬季においても、訪れる人それぞれが安心・快適に過ごせ、交流できる居場所があり、歩きやすく、街にみどりやにぎわい、変化が感じられ、居心地が良く、まち巡りを楽しめる都心を実現します。

成果指標
(仮案)

- **回遊性を評価** → 主要地点における歩行者交通量
- **満足度を評価** → まち歩きが楽しめる通りや場所が多いと評価している人の割合

※下記の視点で引き続き検討を進める(④、⑤は部会の意見を踏まえ追加)

<目標値とは別にモニタリングを行う指標候補(案)>

評価の視点	評価指標(案)	調査方法
①回遊性	シェアサイクルの利用回数	事業者データ
②にぎわい・交流	主要駅における乗降者数	統計データ等
	来街者の滞在時間	ビッグデータ ※要検討
③来街者からの評価	「気軽に休憩・滞在ができる場所が充実し、利用しやすい」と評価している市民の割合	アンケート調査
④バリアフリー	歩道バリアフリー整備率	個別把握
	都心部において地下歩行空間と接続し、段差なく利用できるビル数	同上
⑤安全	交通事故件数	統計データ

R5 指標達成度調査

「まち歩きが楽しめる通りや場所が多い」と評価している人の割合：58.3%



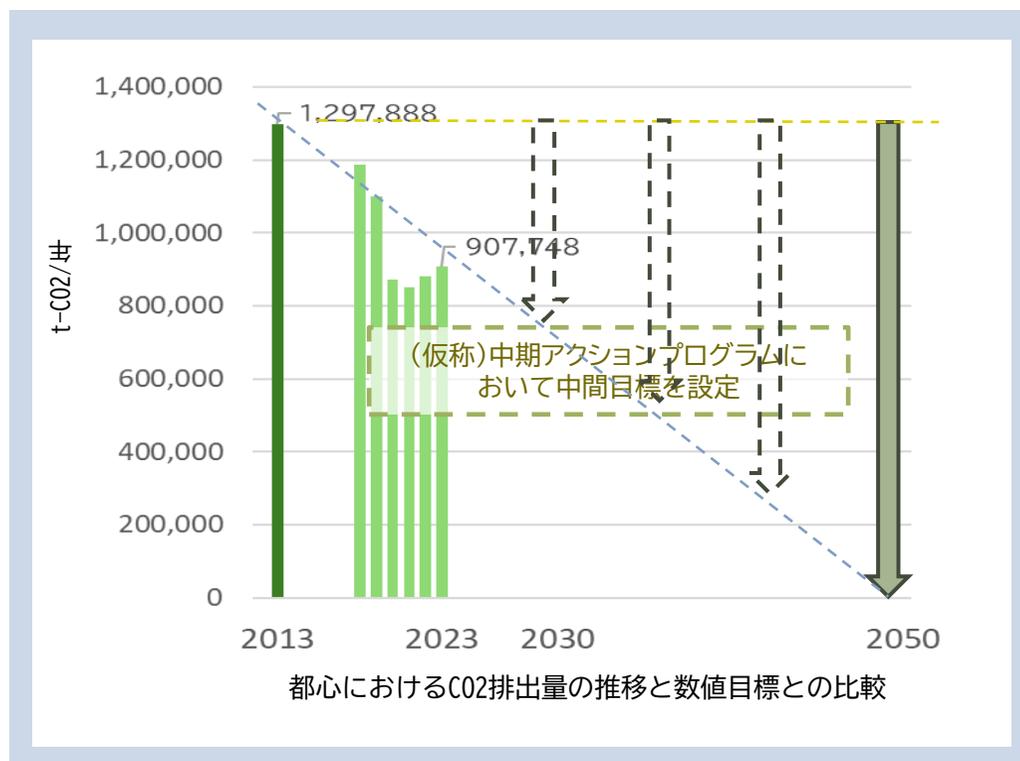
目標3 気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靱化が進む都心

まちづくりとエネルギー施策の一体的な取組の展開により、将来に渡り発展し続けるとともに安全・安心な都市活動を支え、世界から信頼される持続可能な都心を実現します。

成果指標

● 脱炭素化を評価 → 2050年のCO2排出量実質ゼロ《2013年度比で100%削減》

- 「2050年ゼロカーボンシティ宣言」を踏まえ、札幌市気候変動対策行動計画（2021年策定）において2050年ゼロカーボンを目指して設定。
- 運用段階における2050年のCO2排出削減目標を「排出量実質ゼロ」へ見直し。



■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向

目標1 多様なひと・もの・ことが集まり
新たな産業・文化・交流が生まれる都心

初出

基本方針 1-1 多くの人を呼び込む
「高次都市機能の集積」

- 1-1-1 アジア・世界に誇れる先進的なビジネス環境の形成
- 1-1-2 北海道観光の玄関口にふさわしい機能の集積
- 1-1-3 多様な消費活動や体験が広がる場と機会の充実
- 1-1-4 地域特性に応じた機能の誘導

基本方針 1-2 札幌らしい
「都市ブランド力の強化」

- 1-2-1 エリアの魅力や個性の発揮
- 1-2-2 誰もが快適に過ごせる環境の整備
- 1-2-3 みどりのうるおいと木のぬくもりを感じられるまちの形成
- 1-2-4 札幌らしさが際立つ魅力的な景観の形成

基本方針 1-3 「シティプロモーションの強化」

- 1-3-1 都心の魅力や価値を国内外に届けるシティプロモーションの強化

目標2 冬でも、誰でも、
まち巡りが楽しい都心

基本方針 2-1 札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」

- 2-1-1 格子状の街路網の特徴を生かした、ストリートの魅力や個性の創出
- 2-1-2 選択性が高く、多様性に富み、みどり豊かな、回遊したくなるストリートの形成
- 2-1-3 積雪寒冷地ならではの屋外空間における魅力的な景観形成や賑わいの創出

基本方針 2-2 都心のまちづくりを支える
「機能的な交通環境の構築」

- 2-2-1 都心に必要な交通機能やアクセス環境の確保
- 2-2-2 四季を通じて快適に移動できる環境の充実

基本方針 2-3 多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」

- 2-3-1 パブリックスペースにおける多様な活動や魅力的なコンテンツの創出による賑わい・交流の促進
- 2-3-2 雪という札幌の個性を活かした、パブリックスペースの冬の利活用の促進
- 2-3-3 限られた道路空間の運用の全体最適化
- 2-3-4 関連分野と連携した取組

目標3 気候風土に即した先進的な
脱炭素化・強靱化の取組が進む都心

基本方針 3-1 最適な手法の組み合わせ
による脱炭素化の推進

- 3-1-1 建替更新・改修時の徹底した省エネ化の推進
- 3-1-2 エネルギーの面的利用の更なる拡大と効率化
- 3-1-3 先進技術を活用した再生可能エネルギーの導入

初出

基本方針 3-2 雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な都心の構築

- 3-2-1 災害時における市民、来街者、ワーカーの安全確保
- 3-2-2 経済活動を維持するための備えの充実
- 3-2-3 多様な主体による防災に向けた取組の促進

基本方針 3.3 先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

- 3-3-1 建物の特性に応じた効果的な取組誘導
- 3-3-2 着実に脱炭素化を推進するための実績評価

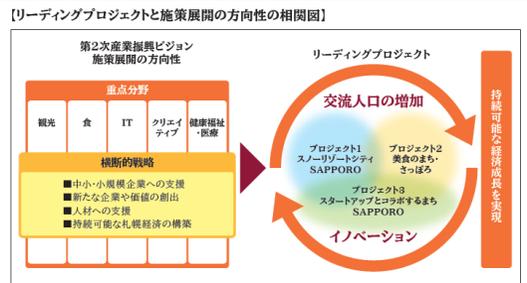
■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向

目標1

多様なひと・もの・ことが集まり、
新たな産業・文化・交流が生まれる都心

<参考> 第2次札幌市産業振興ビジョン



産業振興ビジョンでは、国内外への発信力を持つ「観光」・「食」を交流人口増加の呼び水とし、「スタートアップ」の革新的な技術や発想を基に、イノベーションを創出するエンジンとして相乗効果を生みながら産業振興を図ることを目指しています。

特に都心は、ビジネス環境の優位性による業務集積、観光・食の中心地として経済活力をけん引することが求められます。都心まちづくり計画では、まずその機能集積を重視するとともに、人が多く集まることを生かし、イノベーションが起こりやすい環境、交流を促す快適環境を充実させていくことを目指します。

1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

国内外からビジネスパーソンや観光客が訪れたいくなり、市民にとっては働く場としても出かけたいくなる場としても魅力的に感じる都心であるために、都市機能の集積・高度化を図ります。建物の更新を適切にとらえ、投資を呼び込み、経済をけん引する国際的な活動の拠点にふさわしい市街地を形成します。

1-2 札幌らしい「都市のブランド力の強化」

エリアマネジメントの推進により都心の各エリアが個性を磨き、みどりや雪を活かした景観や誰もが快適に過ごせる環境を整えていくことで、世界が憧れ市民が誇れる「札幌らしさ」を醸成していきます。

1-3 シティプロモーションの強化

都心まちづくりの取組を共有し浸透を図り、多様な主体が一体となり都心の魅力や価値を発信することに注力します。共感した市民や来街者が発信することを促し、さらに人や投資を呼び込んでいく好循環が生まれることを目指します。

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

1-1-1 アジア・世界に誇れる先進的なビジネス環境の形成

取組の方向

- ◆ 札幌・北海道の経済をけん引する企業の集積 (取組例)
 - ・ GX産業の集積を見据えた金融機能集積・強化 (資産運用会社の誘致等)
 - ・ BCP適地の強みを生かした国内外の本社機能の誘致
 - ・ 世界水準の高機能オフィスの整備

- ◆ ワーカーの更なる活躍を引き出すビジネス環境の整備 (取組例)
 - ・ 多様で豊かな働き方を促すワークスペースの充実
 - ・ 企業や人材の交流を促す場・機会の創出
 - ・ スタートアップによる実証実験等の受入環境の充実
 - ・ 誰もが気軽に利用できるパブリックスペースの充実
 - ・ ウェルビーイング向上に資する環境の充実



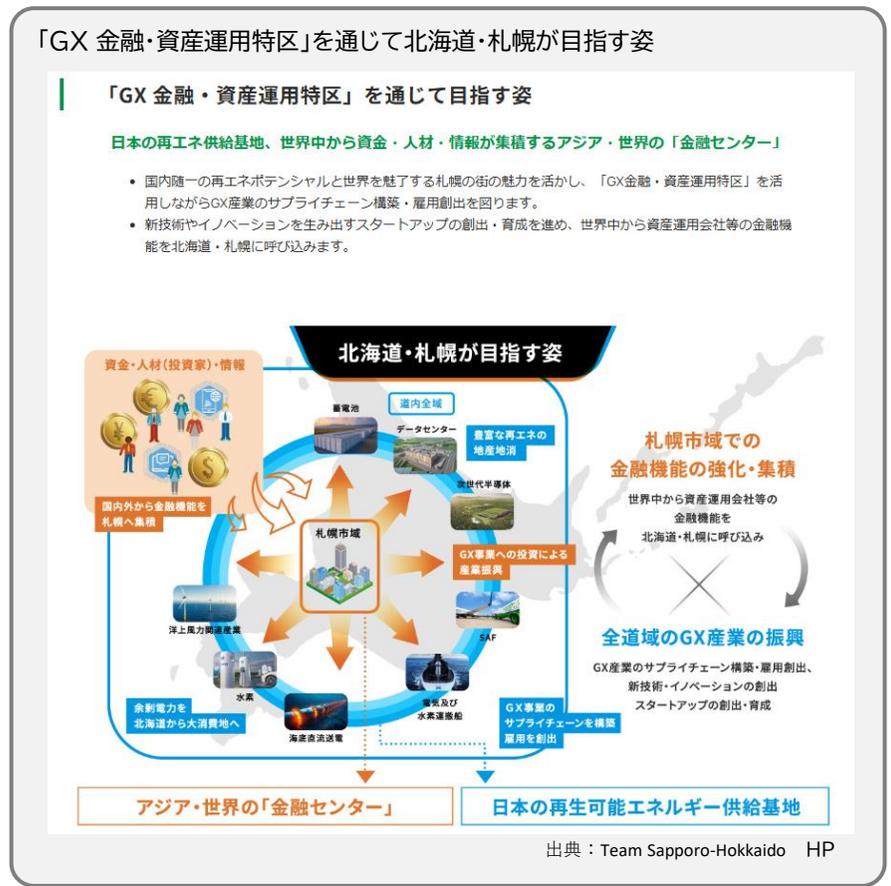
【参考イメージ】高機能オフィス



札幌市企業誘致スローガン・ロゴ「大札幌」



市役所12階スタートアップ交流拠点「社交場ヤング」



■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

1-1-2 北海道観光の玄関口にふさわしい機能の集積

取組の方向

◆ 多様な交通アクセスの充実・交通結節点の強化

(取組例)

- ・ 新幹線の延伸を契機とした交通結節点としての機能強化
- ・ 多様な交通モードでのアクセスを支える環境整備

◆ 多様な層を受け入れる滞在環境の充実

(取組例)

- ・ 富裕層を受け入れる世界水準のハイグレードホテルの整備

◆ MICEの推進

(取組例)

- ・ 継続的なMICEの誘致
- ・ 既存資源を活かしたアフターコンベンションプランの充実

◆ 札幌ならではの付加価値の高い観光コンテンツの提供

(取組例)

- ・ 歴史や文化財、食、自然などの既存資源を活かした観光コンテンツの創出

◆ 観光客の受入機能の強化

(取組例)

- ・ 観光案内所の機能強化
- ・ 手荷物預かり、手荷物配送の機能強化



【参考イメージ】
JR北海道 H5系(JR北海道 提供)



【参考イメージ】すすきの夜間観光



【参考イメージ】
北三条広場(アカプラ)のスケートリンク



【参考イメージ】ハイグレードホテル

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

1-1-3 多様な消費活動や体験が広がる場と機会の充実

取組の方向

◆ 多くの人をひきつける機能の集積

(取組例)

- ・ 飲食・買い物・娯楽など商業機能の集積
- ・ 文化芸術、エンタメなど多様な集客交流施設の充実
- ・ 多様な使い方ができるパブリックスペースの充実



【参考イメージ】狸小路商店街



【参考イメージ】札幌駅

【参考イメージ】
札幌文化芸術劇場hitaru【参考イメージ】
大通公園・さっぽろライラックまつり

◆ 豊かな時間消費を支える場と機会の充実

(取組例)

- ・ 文化芸術・スポーツ・エンタメなど多様なイベントの誘致
- ・ パブリックスペースの柔軟な活用

【参考イメージ】
大通公園・ブラックスライドマントラ【参考イメージ】
札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

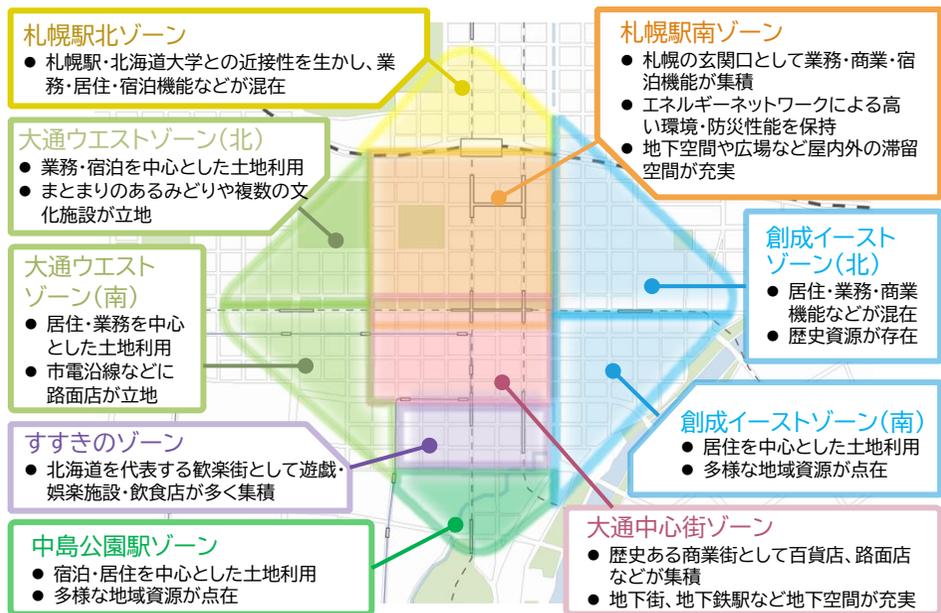
1 - 1 - 4 地域特性に応じた機能の誘導

取組の方向

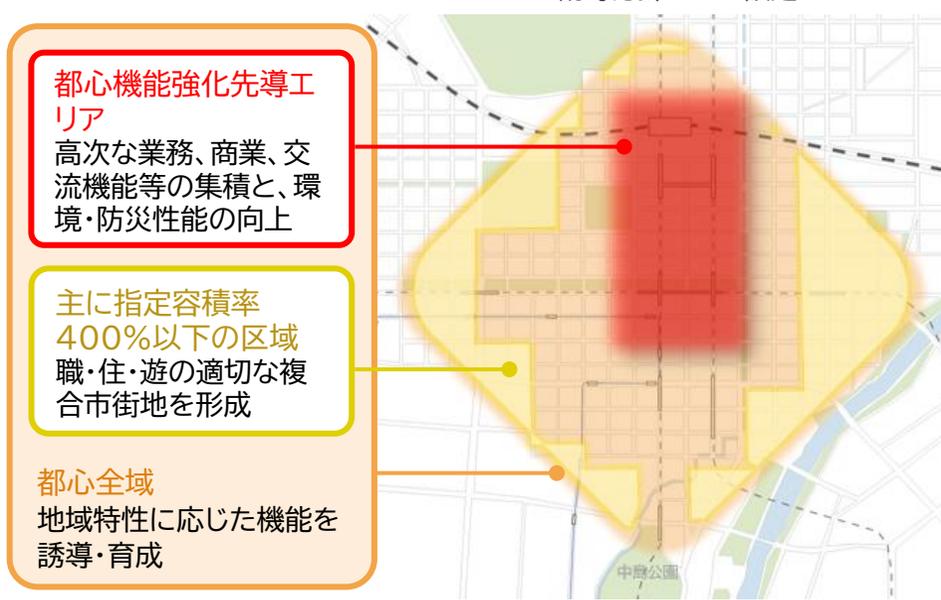
◆ 地域特性やまちづくりの動向をふまえた機能の誘導 (取組例)

- 各地域の特性 (まちづくりゾーン*等) に応じた機能を誘導・育成 (業務・商業・集客交流・宿泊・教育・居住・生活利便等)
- 居住機能に関するエリア別の誘導方針の検討
- エリア別のまちづくりガイドライン策定
- 建替や既存建物の改修等を促す方策の導入

<*まちづくりゾーン(案)> ※土地利用の現況から設定(2章掲載予定)



<地域別の機能誘導方針(案)> ※まちづくりゾーンを踏まえた誘導方針として設定



■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-2 札幌らしい「都市ブランド力の強化」

1-2-1 エリアの魅力や個性の発揮

取組の方向

◆ 地域主体の地区まちづくりの推進

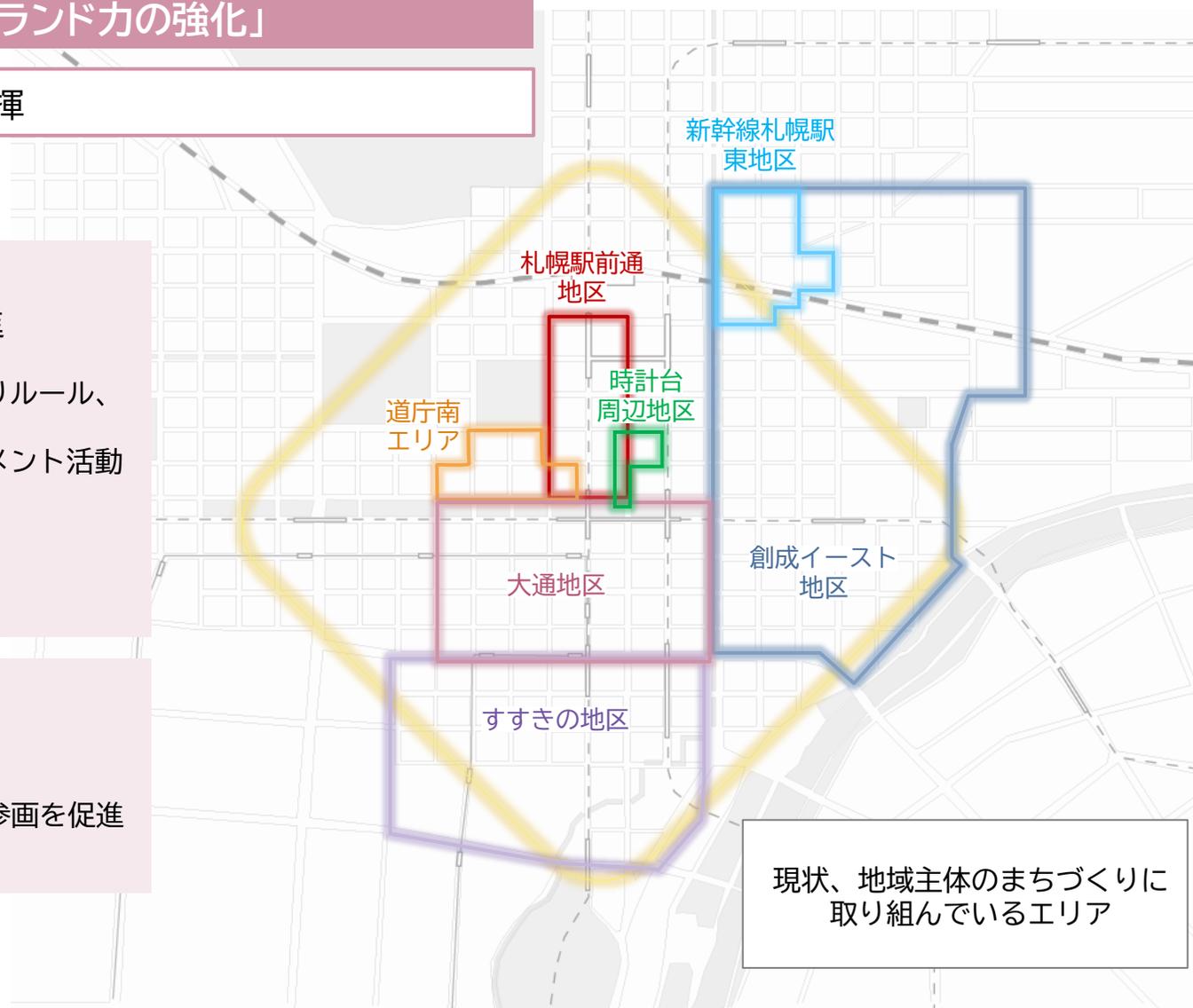
(取組例)

- エリアごとの将来像、地区まちづくりルール、ガイドライン等の検討・共有
- エリアのブランド力を高めるマネジメント活動の推進（公共的空間の利活用など）
- 新たな地区まちづくりの機運醸成
- エリア間連携の促進

◆ まちへの愛着の醸成

(取組例)

- 若者など多様な人のまちづくりへの参画を促進



現状、地域主体のまちづくりに
取り組んでいるエリア

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-2 札幌らしい「都市ブランド力の強化」

1-2-2 誰もが快適に過ごせる環境の整備

取組の方向

◆ 誰もが利用しやすい環境の整備 (取組例)

- 歩行空間・公園・公共施設・民間施設などのバリアフリー化及びユニバーサルデザインの導入促進
- 子どもと共に訪れ滞在しやすい環境の整備

◆ 多言語に対応したわかりやすい案内の充実、情報発信の強化 (取組例)

- 案内サイン、誘導サインの多言語化
- ピクトグラムの積極的活用
- 統一感を持たせたデザインの検討

◆ 安心して訪れることができる環境の整備 (取組例)

- 客引き防止などの取組みの推進

札幌市『ユニバーサル展開プログラム』



【参考イメージ】エレベーターの新設
(札幌市 札幌市バリアフリー基本構想)



【参考イメージ】見やすさに配慮した案内板の例(札幌市 福祉のまちづくり醸成施設整備ガイドブック)

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-2 札幌らしい「都市ブランド力の強化」

1-2-3 みどりのうるおいと木のぬくもりを感じられるまちの形成

取組の方向

◆ 多面的な機能をもつ都市緑化の促進

(取組例)

- ・ 公園・街路樹など公共的なみどりの充実・強化
- ・ 民有地における魅力的な屋内外のみどり空間の創出
- ・ 自然環境が有する多様な機能（グリーンインフラ）の活用
- ・ まちへの愛着を育むみどりの維持管理活動の展開

◆ 建築物等における道産木材利用の促進

(取組例)

- ・ 建築物における道産木材の利用促進
- ・ パブリックスペースにおける内装材・ベンチ等への道産木材の利用促進

みどりの機能

- ・ 気候変動対応、生物多様性確保、幸福度(Well-being)の向上等の課題解決に向けて、緑地が持つ機能に対する期待が高まっています。
- ・ 札幌市みどりの基本計画では、みどりの機能を発揮する「自然」「都市」「ひと」の3つの対象ごとに整理しています。

自然

- ①自然環境の保全
- ②地球環境問題への対応



【参考イメージ】緑陰のある通り

都市

- ③都市環境の形成
- ④防災機能の発揮
- ⑤観光まちづくり・地域経済への寄与



【参考イメージ】建物と調和した並木

ひと

- ⑥さまざまな世代が利用できる場の提供
- ⑦コミュニティの形成



【参考イメージ】大通公園のイベント

木材利用の効果 (参考:林野庁資料)

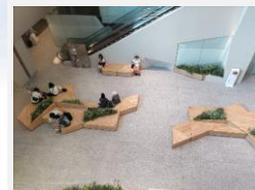
- ・ 木材の建築物への利用は、建築物のエンボディドカーボン(建物やインフラの建設や改修に際して排出される温室効果ガス量)の削減に寄与するとともに、「伐って、使って、植えて、育てる」という資源の循環利用の促進につながる、カーボンニュートラルに向けて有効な取組です。
- ・ また、木材を利用した空間は、人々の心地よさを高める効果や滞在時間を長くする効果、企業価値の向上など、カーボンニュートラルだけでなく多様な効果も期待されます。



【参考イメージ】木材を活用した建物 (ザ ロイヤルパーク キャンパス札幌大通公園)



【参考イメージ】資源の循環サイクル (札幌市 森づくり基本方針)



【参考イメージ】木のベンチを配置した屋内広場 (D-LIFEPLACE札幌)

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-2 札幌らしい「都市ブランド力の強化」

1-2-4 札幌らしさが際立つ魅力的な景観の形成

取組の方向

◆ 都心の先進性の中にも歴史やみどりを感ずる景観形成の推進

(取組例)

- ・ 歴史資源や通りごとの特徴を活かした景観の形成
- ・ 通りごとの特徴を活かしたみどりのネットワークの強化

◆ 季節や時間ごとに異なる表情やにぎわいを感じる景観形成の推進

(取組例)

- ・ 夜間照明や雪を活かした景観の形成
- ・ 誰もが気軽に利用できるパブリックスペースの充実と利活用の促進
- ・ 沿道と道路を一体的に捉えた空間のデザイン（沿道建物低層階のガラス張り化など）
- ・ 沿道の路面店等による道路空間の一体的な利用（オープンカフェ、緑化など）



【参考イメージ】札幌駅前通の夜間景観



【参考イメージ】北3条広場(アカプラ)



【参考イメージ】地下歩行空間の活用

【参考イメージ】道路空間の活用
(シャワー通社会実験)

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-3 シティプロモーションの強化

1-3-1 都心の魅力や価値を国内外に届けるシティプロモーションの強化

取組の方向

◆ 世界に向けた発信力の向上

(取組例)

- ・ 官民一体による企業誘致スローガン「大札新」を活用した都心のリニューアルのPR
- ・ まちづくり団体・民間事業者等、多様な主体が一体となったシティプロモーションの仕掛けづくり
- ・ 市民・来街者が札幌の魅力を発信したくなる機運の醸成



札幌市企業誘致スローガン・ロゴ「大札新」を活用した市内外でのPR

◆ 都心まちづくりの取組の共有・浸透

(取組例)

- ・ 都心まちづくり計画の効果的な発信・共有
- ・ 官民による取組のPR



「笑顔になれる街」札幌をイメージしたロゴ『SAPP-RO』とテレビ塔

目標2

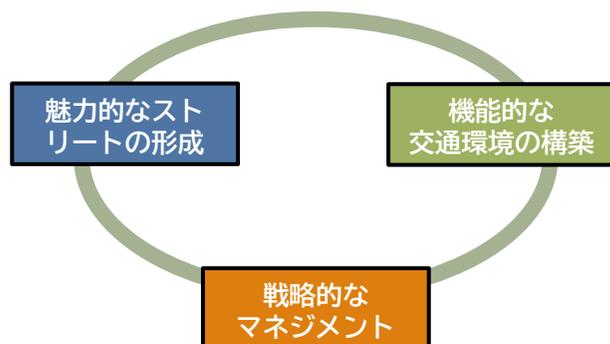
冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

- ◆ストリート（※街路のみならず沿道等も含む）における四季を通じた多様な活動の創出

…積雪寒冷地の特性を踏まえつつ、官民が持つ様々なパブリックスペース（公共的空間）を一体的に捉え、人と人の出会い、滞留、交流、自己表現などの「多様な活動が生まれる魅力的な空間」に改変するとともに、空間を「柔軟に活用できる仕組み」を構築する

- ◆様々な活動を支える安全・安心かつ円滑な交通環境の構築

…都心における人やモノの「移動環境」、人々の乗降や荷さばきなどの沿道への「アクセス環境」の向上を図り、空間を「効果的・効率的に運用できる仕組み」を構築する。



2-1 札幌都心ならではの「魅力的なストリークの形成」

- ① 格子状の街路網の特徴を生かした、ストリークの魅力や個性の創出
- ② 選択性が高く、多様性に富み、みどり豊かな、回遊したくなるストリークの形成
- ③ 積雪寒冷地ならではの屋外空間における魅力的な景観形成や賑わいの創出

2-2 都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」

- ① 都心に必要な交通機能(※1)やアクセス環境(※2)の確保
 ※1 交通機能:ヒトやモノが移動するための機能(徒歩、自転車、公共交通、乗用車、貨物車等による目的地までの移動。駐車施設等も含む)
 ※2 アクセス環境:人々の乗降やに荷捌きなどの沿道にアクセスするための機能
- ② 四季を通じて快適に移動できる環境の充実

2-3 多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」

- ① パブリックスペースにおける多様な活動や魅力的なコンテンツの創出による賑わい・交流の促進
- ② 雪という札幌の個性を活かした、パブリックスペースの冬の利活用の促進
- ③ 限られた道路空間の運用の全体最適化
- ④ 関連分野と連携した取組

基本方針2-1 札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」

2 - 1 - 1

格子状の街路網の特徴を生かした、ストリートの魅力や個性の創出

取組の方向

◆ 回遊の基軸となる象徴的なストリートの形成

(取組例)

- ・ 骨格軸などの主要な通りの更なる魅力化
- ・ エリアのまちづくり活動や開発の機運などを踏まえた魅力的なストリートの形成



【参考イメージ】ランブラス通り（バルセロナ市）

◆ 街路と沿道が一体となった魅力的な街路空間の形成

(取組例)

- ・ 既存の沿道状況や建替え等に合わせた街路空間の検討（必要に応じて道路空間再編の検討など）
- ・ 沿道と道路を一体的に捉えた空間のデザイン（沿道建物低層階のガラス張り化など）
- ・ 沿道の路面店等による道路空間の一体的な利用（オープンカフェ、緑化など）



【参考イメージ】サンキタ通り（神戸市）

◆ 見通しの良さを活かした通りの景観形成や交差点における辻空間の魅力の向上（点と線のデザイン）

(取組例)

- ・ 遠景、奥行き感、丁字路のアイストップ等を生かした空間デザインの検討
- ・ エリアや路線の特徴を踏まえた交差点の特徴付け（緑化、ゆとりのある空間など）
- ・ 路線や区間によって変化のある空間形成（沿道も含めた緑化、舗装材等によるデザインの工夫など）



【参考イメージ】北3条広場

基本方針2- 1 札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」

2 - 1 - 2 選択性が高く、多様性に富み、みどり豊かな、回遊したくなるストリートの形成

取組の方向

◆ 季節や天候、目的等による選択性が高い、滞在空間や回遊動線の創出

(取組例)

- ・ 屋外環境に左右されにくい屋内や半屋内の滞在空間の創出（地下、公開空地等）
- ・ 公園、道路や民間敷地内におけるみどり豊かな空間の充実
- ・ 界索性や奥行きを出すための中通りの魅力化や敷地内貫通通路の整備誘導



【参考イメージ】
チ・カ・ホ



【参考イメージ】
モントルグイユ地区（パリ市）

◆ パブリックスペースにおける滞留や交流などの多様な活動ができる空間の創出

(取組例)

- ・ 立ち止まる、座る、食べる、遊ぶ、買い物をする、パフォーマンスをするなどの多様な活動が行える空間の整備



【参考イメージ】大通公園（実証実験）

2 - 1 - 3 積雪寒冷地ならではの屋外空間における魅力的な景観形成や賑わいの創出

取組の方向

◆ 積雪期の魅力と賑わいも考慮した札幌都心ならではのストリートの形成

(取組例)

- ・ 公共空間等における冬の魅力的な街並みの創出（雪や光などを活かした空間演出）
- ・ 街並みを眺められる空間の充実（沿道のカフェ、公開空地など）



【参考イメージ】札幌駅前通

基本方針2- 2 都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」

2 - 2 - 1 都心に必要な交通機能(※1)やアクセス環境(※2)の確保

※1 交通機能：ヒトやモノが移動するための機能（徒歩、自転車、公共交通、乗用車、貨物車等による目的地までの移動。駐車施設等も含む）

※2 アクセス環境：人々の乗降やに荷捌きなどの沿道にアクセスするための機能

取組の方向

◆ 各路線相互の機能分担と各路線における必要な機能の配置

(取組例)

- ・ 各エリアや各路線における必要な機能の配置

◆ 都心を目的地としない通過交通の適切な誘導等

(取組例)

- ・ 交通機能が重視される路線の交通円滑化

◆ 都市活動を支える、荷さばきや人々の乗降などの空間の確保

(取組例)

- ・ 民間開発との連携による交通施設の整備（共同荷さばき場、観光バス乗降場等）
- ・ 路上荷さばき場、バス停、タクシー乗降場、観光バス乗降場・駐車場などの必要な空間の確保
- ・ 荷さばきの効率化に資する取組の誘導（大型施設における館内物流体制の構築、荷さばき規制緩和区間の適正利用促進など）
- ・ 既存の駐車施設の利用分散等による混雑の緩和

基本方針2-2 都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」

2-2-2 四季を通じて快適に移動できる環境の充実

取組の方向

◆ 安全・安心かつ円滑な歩行者動線の充実

(取組例)

- ・ 北海道新幹線札幌延伸を見据えた、駅から都心各所への移動経路の充実
- ・ 歩行者動線の更なるバリアフリー化（官民連携による地下歩行ネットワークの拡充、地上・地下動線の充実など）



【参考イメージ】北8西1地下通路

◆ 広域交通結節点と都心内の移動手段との接続の円滑化

(取組例)

- ・ 各交通との接続環境の充実（地下鉄、鉄道（JR）、バス、タクシー、路面電車、新たな公共交通、シェアサイクルなど）
- ・ 情報提供の充実（案内サイン、ICTを活用した情報発信など）

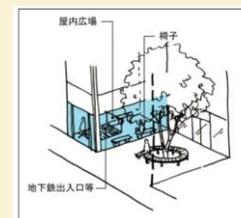


【参考イメージ】シェアサイクルポート

◆ 公共交通などの待合い、休憩環境の充実

(取組例)

- ・ 沿道施設への待合いスペースの整備誘導など
- ・ 移動途中における屋外の暑さや寒さをしのぎ、休憩できる空間の充実（クーリングシェルターなど）



【参考イメージ】屋内広場（札幌市資料）

基本方針2- 3 多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」

2 - 3 - 1 パブリックスペースにおける多様な活動や魅力的なコンテンツの創出による賑わい・交流の促進

取組の方向

◆ エリアや建物等のコンセプトに合ったパブリックスペースの多様な利活用の促進

(取組例)

- ・ 規制緩和や利活用ルールの明確化（公共空間の占有許可基準の緩和や公開空地活用のルールの明確化の検討、検証のための社会実験の実施など）



【参考イメージ】南1条通社会実験

◆ 柔軟かつ持続可能な利活用を実現する仕組みや体制の構築と情報発信

(取組例)

- ・ まちづくりのプレイヤーの発掘・育成（社会実験等を通じた取組）
- ・ 運営主体の資金確保（収益を得られる仕組みの検討）
- ・ 市内外への積極的な情報発信（機運醸成やプレイヤー発掘の視点）



【参考イメージ】ストリートデザインスクール@札幌
提供：札幌駅前通まちづくり株式会社

2 - 3 - 2 雪という札幌の個性を活かした、パブリックスペースの冬の利活用の促進

取組の方向

◆ 冬季の屋外空間や屋内空間の柔軟な利活用

(取組例)

- ・ 歩道に面した屋内や半屋内の広場、地下空間や屋内の公開空地等の利活用の促進
- ・ 屋外の広場や公開空地における、雪を活かした特徴的なイベント実施等の促進



【参考イメージ】
モユクサッポロ（公開空地の活用）

基本方針2-3 多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」

2 - 3 - 3 限られた道路空間の運用の全体最適化

取組の方向

◆ 求められる様々なニーズに対する既存道路の利活用の工夫や道路の構築・再編等

(取組例)

- ・ さっぽろシャワー通り (荷さばきや歩行者のニーズに対応した一事例)



【取組イメージ】
さっぽろシャワー通り

2 - 3 - 4 関連分野と連携した取組

取組の方向

◆ 健康（ウェルネス）や脱炭素（エネルギー）施策等への波及

(取組例)

- ・ 来街者の歩行数増加による健康増進
- ・ 公共交通の利用促進や交通の円滑化等による二酸化炭素排出量の削減 など



【取組イメージ】
南1条通社会実験

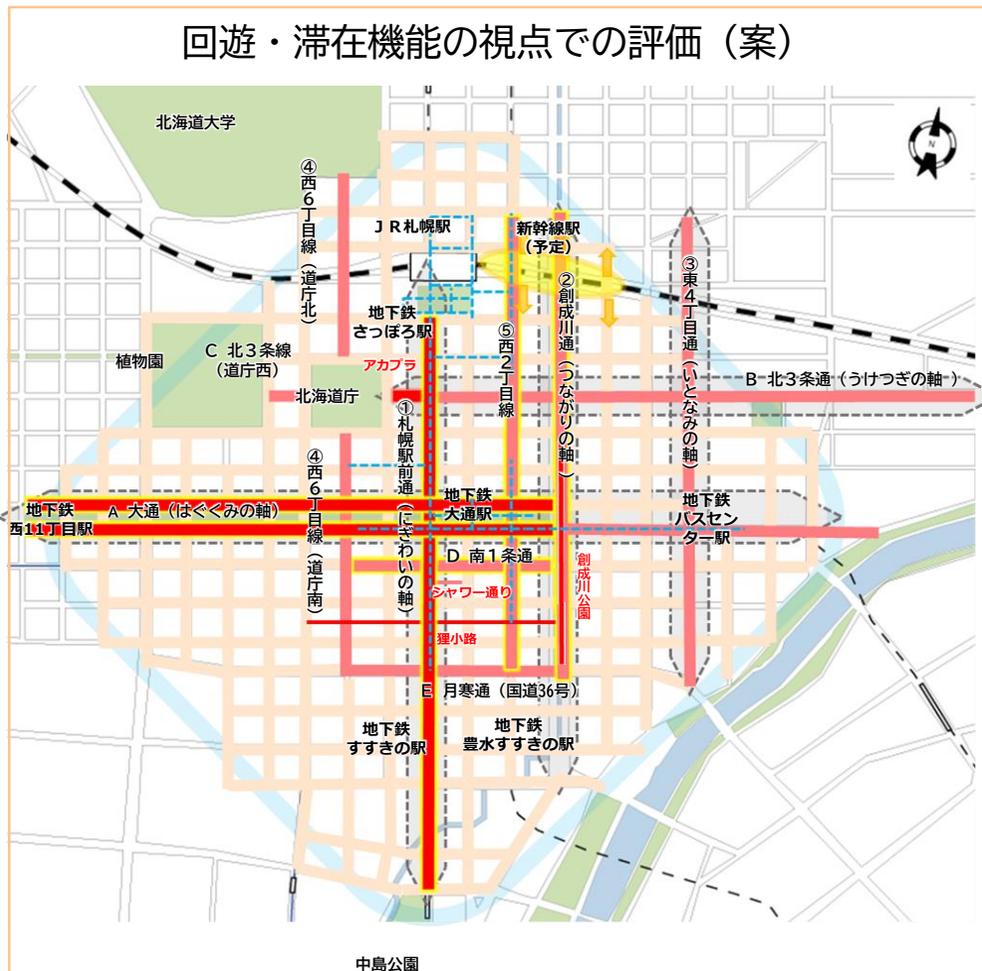
■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた取組の方向

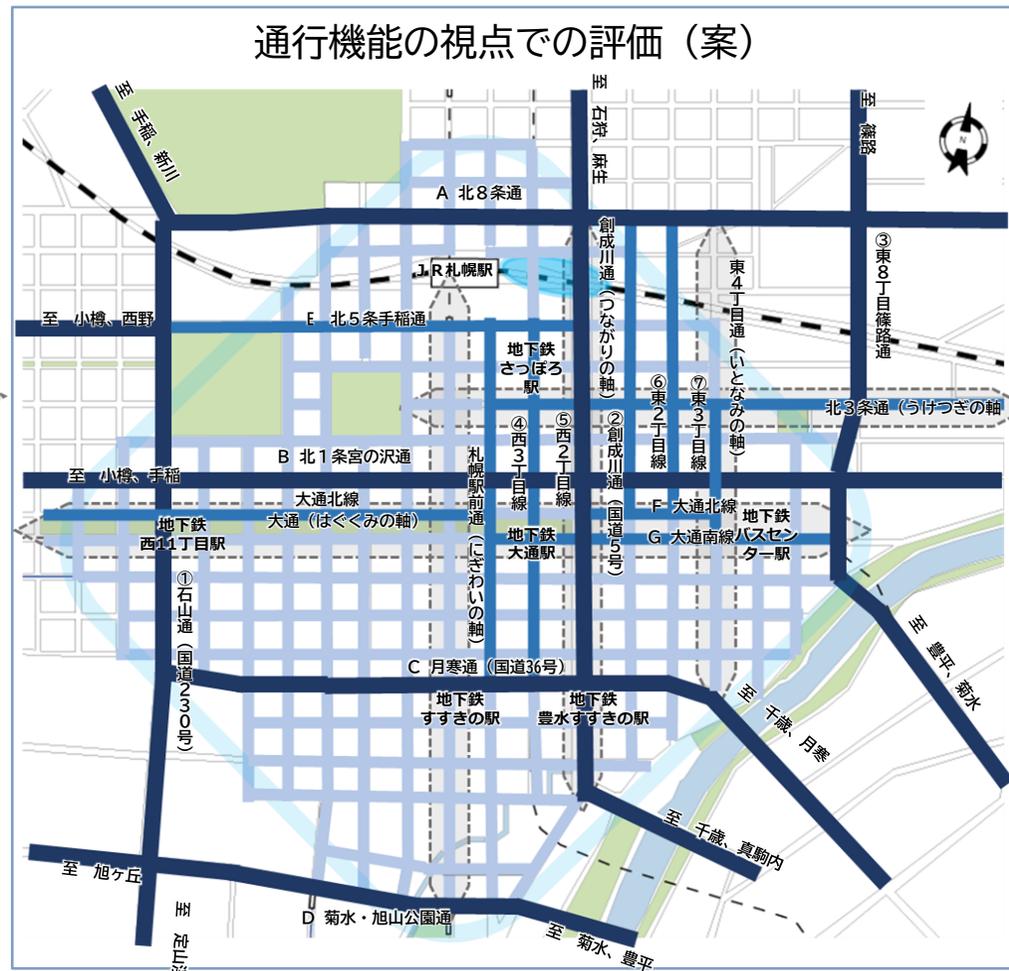
重点取組路線の設定の検討

✓ 都心の基本構造等を踏まえつつ、下記の視点で各路線の性格付けを整理しました。今後、重点取組路線や各施策の検討を進めます。

回遊・滞在機能の視点での評価 (案)



通行機能の視点での評価 (案)



【凡例】

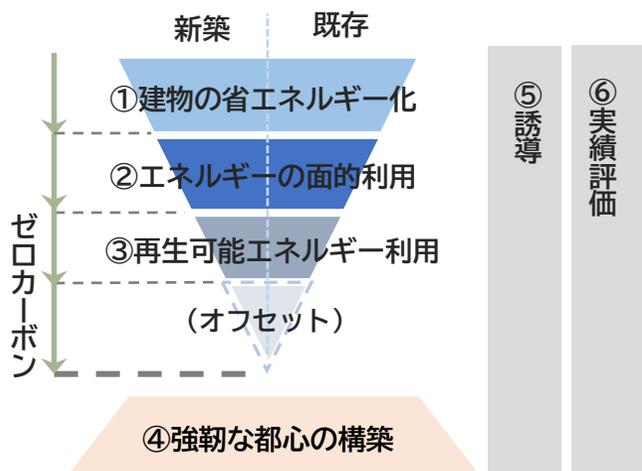
回遊・滞在機能
の評価 ↑ 高

まちづくりの進展等が見
込まれる路線等
骨格軸・展開軸

JR
地下鉄
地下空間

通行機能の評価 ↑ 高

目標3
気候風土に即した先進的な取組により
脱炭素化・強靱化が進む都心



建物における目標実現に向けた取組イメージ
※①～③毎の削減割合については、検討中

3-1 最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

- 目標達成に向けたCO2排出量の削減手法として「①建物の省エネルギー化」「②エネルギーの面的利用」「③再生可能エネルギー利用」を位置付け、建物の立地、規模、用途構成などに応じて、**最適な手法の組み合わせにより都心の脱炭素化を推進。**
- 一方、現時点においては①～③の削減手法だけでは脱炭素化の実現が困難なことから、ゼロカーボンを達成するための不足分を補うため、**当面の間の手法として「オフセット」を位置付け。**
- 計画期間中(20年以内)の建替え予測を踏まえ、**既存建物への取組を強化。**

基本方針

3-2 雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な都心の構築

- **誰もが安全・安心に都市活動を行えるよう「④強靱な都心の構築」を位置付け、まちづくりとエネルギー施策が連携した取組により強靱化を推進。**

3-3 先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

- **建物の特性に応じた効果的な取組の「⑤誘導」と適切な「⑥実績評価」により取組の実効性を確保。**

基本方針3-1 最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

3-1-1 建替更新・改修時の徹底した省エネ化の推進

取組の方向

- 建替更新や改修時における省エネ化（ZEB、ZEH-M、ZEH水準の確保）
- 建物の立地、規模、用途構成などに応じた効果的な省エネ設備の導入拡大
- 新築建物に加えて既存建物へのBEMS導入拡大

取組を進めるエリア区分

脱炭素化・強靭化
先導エリア

脱炭素化
推進エリア

脱炭素化
促進エリア

（仮称）中期アクションプログラムにおける取組イメージ

《既存建物への取組》

- 既存建物についてBEMSの導入や効果的な省エネ改修（ZEB改修等）を誘導 など

《新たな手法の位置づけ》

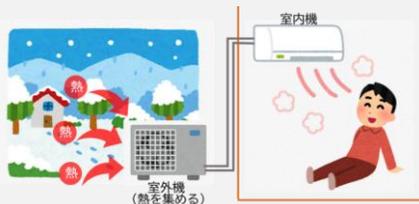
- 現行マスタープランに明記されていないヒートポンプ等の取組について明記

など

<立地・規模・用途構成に応じた効果的な省エネ設備の例>

ヒートポンプ

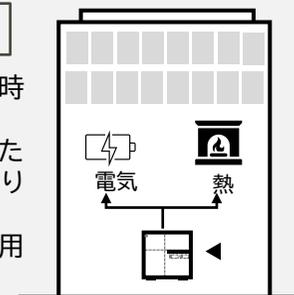
- 大気中の熱などを利用することにより、少ないエネルギーで効率的に冷暖房や給湯を行うことが可能。
- 動力源として電力(EHP)とガス(GHP)に大別される。
- 様々な規模、用途の建物での活用を想定。



ヒートポンプによる暖房のイメージ

マイクロコージェネレーションシステム

- 個々の建物において排熱利用による平時のエネルギー利用効率の向上に寄与。
- 災害等により万が一システム電力が途絶した場合においても、電力の供給継続により強靭化にも有効。
- 給湯や暖房等の熱需要の大きい建物用途での活用を想定。



マイクロコージェネレーションシステムのイメージ

基本方針3-1 最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

3-1-2 エネルギーの面的利用の更なる拡大と効率化

取組の方向

- 大規模開発と連動したエネルギーセンターの整備による冷温水熱供給ネットワークの拡大
- 冷温水熱導管ネットワークへの接続の推進と導管の整備拡充
- 複数のエネルギーセンター間の連携に向けた熱導管の拡充
- エネルギーセンターへの新技術の導入（ICT活用による高効率化など）
- エネルギーセンターにおける熱の脱炭素化
- 既存の熱導管への接続が難しい地域においては拠点型熱供給などを推進

取組を進めるエリア区分

脱炭素化・強靱化
先導エリア

脱炭素化
推進エリア

脱炭素化
促進エリア※

※脱炭素化促進エリアにおいても大規模開発が見込まれる場合には拠点型熱供給などの取組を推進。

（仮称）中期アクションプログラムにおける取組イメージ

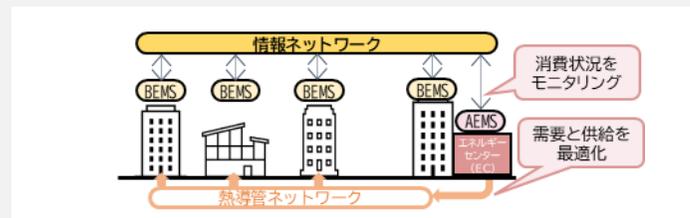
- エネルギーセンターにおけるカーボン・オフセット都市ガスへの切替え

など

<ICT活用によるエネルギーセンター効率化の例>

エリアエネルギーマネジメントシステム(AEMS)

- 地域全体のエネルギー消費をリアルタイムで監視・管理することにより全体最適を図り、効率的にエネルギーを利用。



変温度供給システムの構築

- 気象条件等に応じて熱供給温度を変化させ、熱源機器の運転負荷を抑制することにより、運転効率を向上。

基本方針3-1 最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

3-1-3 先進技術を活用した再生可能エネルギーの導入

取組の方向

- ・ オンサイトでの再エネ導入（太陽光発電、太陽熱など）
- ・ オフサイトPPAによる再エネ電力の導入
- ・ 道内自治体との連携による再エネ電力の導入
- ・ エネルギーセンターへのバイオマスなどの再エネ利用の拡大
- ・ 再エネに由来する水素エネルギーの都心への導入検討
- ・ 当面の間の有効な手法としての再エネ由来クレジット等を活用したCO2オフセット

取組を進めるエリア区分

脱炭素化・強靱化
先導エリア

脱炭素化
推進エリア

脱炭素化
促進エリア

（仮称）中期アクションプログラムにおける取組イメージ

- ・ 都心の特性に応じた再エネ導入の手法として建材一体型太陽光発電設備やペロブスカイト太陽電池などの新技術の導入促進
- ・ 再エネ由来水素の具体的な導入方策の検討

など

<共同住宅の脱炭素化の取組例>

一括受電方式

- ・ 一括受電とは、共同住宅において、住戸毎の個別の電力契約ではなく管理組合等が建物全体で一括して電力契約を結び、各住戸に電力供給する方式
- ・ 一括受電方式により再エネ100%電力を導入することで建物全体として使用する電力を一斉に脱炭素化することが可能

基本方針3-1 最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

1-1~1-3で示される取組の方向を踏まえたエリア区分毎の取組の考え方を示します。

エリア区分毎の取組の考え方

脱炭素化・強靱化先導エリア

熱供給ネットワークインフラの活用 様々な都市機能の集積 都市開発が活発

- 大規模開発等と連動したエネルギーセンターの整備
- 熱供給ネットワークインフラへの接続
- 複数のエネルギーセンター間の連携に向けた熱導管の拡充
- エネルギーセンターの脱炭素化に向けた新技術の導入

脱炭素化推進エリア

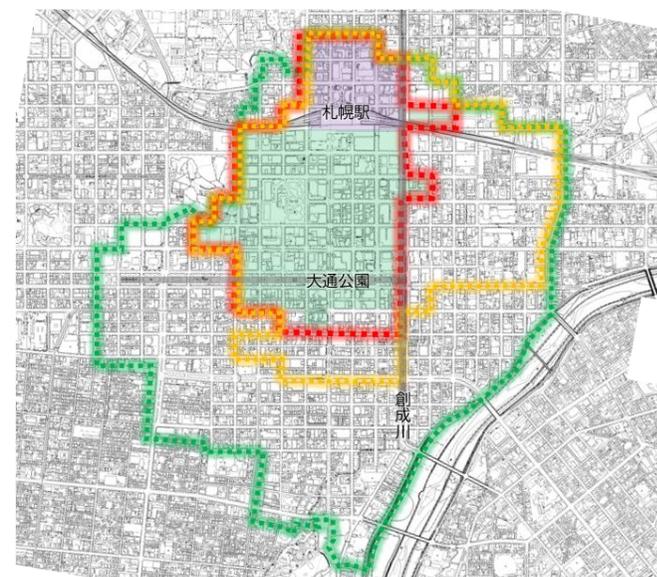
都市再生に寄与する都市開発が進展

- 面的開発が検討される場合は、複数街区間で最適なエネルギー利用がなされるよう拠点型熱供給等を誘導

脱炭素化促進エリア

個別的な建替えや改修が進展

- 建物の立地・規模・用途構成等に応じた脱炭素化の取組を誘導
 - ✓ 比較的大規模な開発については、個々の建替え時における徹底した省エネと太陽光発電設備の導入によりZEB・ZEH-M化を誘導
 - ✓ 小規模な建物については、ZEB・ZEH-M・ZEH化や省エネ改修等に係る支援策を効果的に活用



<支援策の例(現行の支援策)>

- ZEBセミナー
- ZEB、ZEH-M設計支援
- 暖房・給湯機器のエネルギー源転換の促進
- 札幌市住宅エコリフォーム補助制度
- 札幌版次世代住宅(ZEH相当以上の住宅)の普及
- 再エネ省エネ機器導入補助制度
- 既存集合住宅省エネ改修コンサルタント派遣事業

など

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (3)目標3の実現に向けた取組の方向

基本方針3-2 雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な都心の構築

3 - 2 - 1 災害時における市民、来街者、ワーカーの安全確保

取組の方向

- ・民間建築物等の耐震化の推進
- ・地下空間における浸水被害に備えた対策の推進
- ・帰宅困難者や観光客を受け入れる、冬季の利用も想定した一時滞在施設の整備促進
- ・一時滞在施設への電力・熱・水の供給継続
- ・デジタル技術の活用等による災害発生時時における来街者への情報伝達の強化、多言語化の推進

(仮称) アクションプログラムにおける取組イメージ

- ・民間建築物耐震化促進事業など
- ・開発誘導方針の運用を通じた一時滞在施設・備蓄倉庫の整備促進、非常用発電機の導入誘導など

<現行マスタープランにおける「強靱」の評価(参考)>

- ・現行の都心エネルギーマスタープランにおいては「強靱」に係る目標として「**2050年までに都心強化先導エリアの分散電源比率を30%以上**」を設定。
- ・これに対して**2024年時点における分散電源比率は約19%**
- ・また、**現在計画中の建物を含めると約28%となり、概ね達成される見込み。**

都心強化先導エリアにおける分散電源比率の見込み
 自立分散電源(33,452kW) ÷ 契約電力推計(120,845kW)
 =**28%**



■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (3)目標3の実現に向けた取組の方向

基本方針3-2 雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な都心の構築

3-2-2 経済活動を維持するための備えの充実

取組の方向

- ・非常用電源の整備促進(CGS、非常用自家発電機の整備など)
- ・建替更新や改修時における省エネ化の促進(再掲)
- ・大規模開発と連動したエネルギーセンターの整備(再掲)
- ・冷温水熱供給ネットワークへの接続の推進(再掲)

(仮称)アクションプログラムにおける取組イメージ

- ・建物の省エネ化、非常用電源の整備、など

3-2-3 多様な主体による防災に向けた取組の促進

取組の方向

- ・避難訓練や帰宅困難者の受入訓練の実施
- ・エリアマネジメントと連携した防災対策の推進
- ・帰宅困難者の受入空間としてパブリックスペースの活用

(仮称)アクションプログラムにおける取組イメージ

- ・札幌市都心地域帰宅困難者等対策協議会の開催、エリアマネジメント活動の促進、など

基本方針3-3 先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

3-3-1 建物の特性に応じた効果的な取組誘導

取組の方向

- 「札幌都心E！まち開発推進制度」における事前協議の運用改善（建物の立地、規模、用途構成などに応じた誘導を可能とするための対象範囲や評価方法等の再検証）
- 既存建物の改修等を促す方策の導入

3-3-2 着実に脱炭素化を推進するための実績評価

取組の方向

- 「札幌都心E！まち開発推進制度」における運用実績報告によるCO2削減量のモニタリング及び公表
- モニタリング結果を適切に評価し追加施策を検討
- 特に優れた取組を実施する建物の認定及び公表

（仮称）中期アクションプログラムにおける取組イメージ

≪既存建物≫

- 「札幌都心E！まち開発推進制度」における既存建物の対象範囲の拡充を検討
- 初期段階における検討を支える支援方策の検討（ZEBプランナーの紹介制度や省エネ診断の推進等）

≪新築建物≫

- 「札幌都心E！まち開発推進制度」の協議対象の拡大

≪共通≫

- 「札幌都心E！まち開発推進制度」における評価方法の再検証
- 容積率緩和によらない支援制度の検討など

（仮称）中期アクションプログラムにおける取組イメージ

≪評価手法≫

建物における目標実現に向けた取組イメージ（P.19）に示す「①建物の省エネルギー化」「②エネルギーの面的利用」「③再生可能エネルギー利用」の効果を検証

≪協議対象≫

モニタリングの観点から「札幌都心E！まち開発推進制度」における協議対象の範囲を見直し

序章 計画策定の背景

1章 計画の目的と位置付け

2章 現状と課題

3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の基本構造

3.1 理念と目標

〈理念〉

世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心

論点1

〈目標〉

部会で検討

目標 1

多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心

初出

目指す姿(成果指標)

目標 2

冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

目指す姿(成果指標)

目標 3

気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靱化が進む都心

目指す姿(成果指標)

論点2

3.2 都心の基本構造

再整理

部会で検討

(1)骨格構造

都心まちづくりを牽引する中核的

前回からの
変更点確認



(2)エネルギー施策のエリア区分

地域特性に応じたエネルギー施策を進めるエリア



4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向

(1)目標1の実現に向けた取組の方向

初出

(2)目標2の実現に向けた取組の方向

(3)目標3の実現に向けた取組の方向

4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

骨格軸

展開軸

交流拠点

展開拠点

5章 重点的に進める取組

初出

6章 取組の進め方

仕組みと体制

連鎖的な取組の展開

論点3

3.2 都心の基本構造 (1)骨格構造

【軸】 4骨格軸-1展開軸を継承

○先導的な取組をさらに推進し、周辺街区への面的な波及、地区間の連続性を高める基軸として、現行計画を継承。

【拠点】 2交流拠点+2展開拠点の設定

- 現行計画の2つの交流拠点は、都心全体のまちづくりを先導する取組を推進するため、引き続き設定。
- 都心及び骨格軸の西端と南端にあたる2拠点は、地域特性を活かしたまちづくりを重点的に展開していく必要があり、新たな活動・交流を育む「展開拠点」として追加。



【図】 都心の骨格構造 (案)

【軸と拠点の目指す方向】

骨格軸	にぎわいの軸 (駅前通)	札幌の目抜き通りとして、都心の回遊性をけん引し、にぎわいをつなぐ軸
	はぐくみの軸 (大通)	大通公園と沿道が一体となり、札幌都心の象徴性を高め、新たな価値をはぐくむ軸
	つながりの軸 (創成川通)	広域から都心へのアクセスを支えながら、東西のまちのつながりを生む軸
	うけつぎの軸 (北3条通)	東西の回遊を促す、歴史や文化の魅力あふれる街並みをうけつぐ軸
展開軸	いとなみの軸 (東4丁目線)	交流と活気にあふれる沿道から職・住・遊のいとなみを感じる軸
交流拠点	札幌駅 交流拠点	広域的な交通網が結節する札幌の玄関口として国際競争力を先導する拠点
	大通・創世 交流拠点	はぐくんできた価値と新しい価値が融合した世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点
展開拠点	大通公園西 展開拠点	都心西側の回遊拠点を形成し、美しいみどりや歴史・文化芸術を生かした多様な交流をはぐくむ拠点
	中島公園駅 展開拠点	地域に培われた歴史・文化と新たな集客・交流機能が調和した都心南端の拠点

4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.1 骨格軸・展開軸

(1)にぎわいの軸／札幌駅前通

これまでの
主な取組・
成果

- チ・カ・ホの整備、地上部歩道の拡幅
- 沿道開発に伴う地下接続・エネルギーネットワーク接続の拡充
- 地域関係者・まちづくり会社の連携による地区計画やまちづくりルール等の策定、開発の事前調整

今後の
課題

- 沿道からさらにその先へと波及する、奥行きある回遊ネットワークの強化

目指す姿

- 札幌の目抜き通りとして、都心の回遊性をけん引し、にぎわいをつなぐ軸

取組の方向

軸全体
(共通)

- 地区特性に応じた街並みや低層部における機能の誘導を図り、象徴的な目抜き通りを形成
- 沿道からさらに奥のエリアに取組を展開し、回遊性を向上

a

- 札幌の玄関口である札幌駅交流拠点と呼応する高質な空間の形成
- エネルギーネットワークの強化
- 地上・地下の回遊性向上

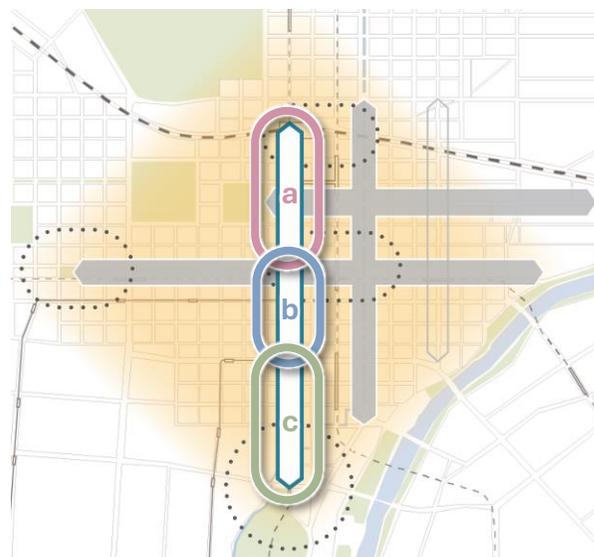
b

- 商業街の歴史を継承した個性と賑わいを感じる魅力的な路面を形成
- 面的なエネルギー利用を推進
- 地上・地下の回遊性向上

c

- 昼の賑わい創出に加え、安心・安全な夜間観光の魅力の発揮
- 中島公園駅展開拠点と呼応した通りへのにぎわいの表出や高質化
- 駅前通南端からの回遊性の向上

R6. 11月撮影



4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.1 骨格軸・展開軸

(2)はぐくみの軸／大通

これまでの
主な取組・
成果

- ▶ 「大通及びその周辺のまちづくり方針」の策定
- ▶ 「大通公園のあり方」の策定検討中

今後の
課題

- ▶ 官民連携で「大通及びその周辺のまちづくり方針」を具体化

目指す姿

- ▶ 大通公園と沿道が一体となり、札幌都心の象徴性を高め、新たな価値をはぐくむ軸

取組の方向

軸全体
(共通)

- 公園・道路空間・沿道が一体となり、魅力的な街並み・連続したみどりの空間を形成
- 沿道からさらに奥のエリアに取組を展開し、回遊性を向上
- 市民・企業・行政などの協働による、道路空間を含むパブリックスペースの多様な利活用

西A

- 大通・創世交流拠点の取組と連動

西B

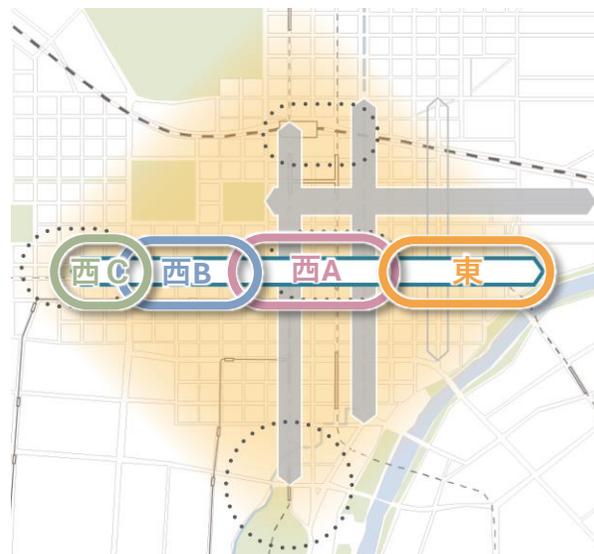
- 居住や業務が共存し、まちに開かれた沿道空間を創出

西C

- 大通公園西展開拠点の取組と連動

東

- 西側の活力を引き込み創成東地区の資源を活かした空間形成



4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.1 骨格軸・展開軸

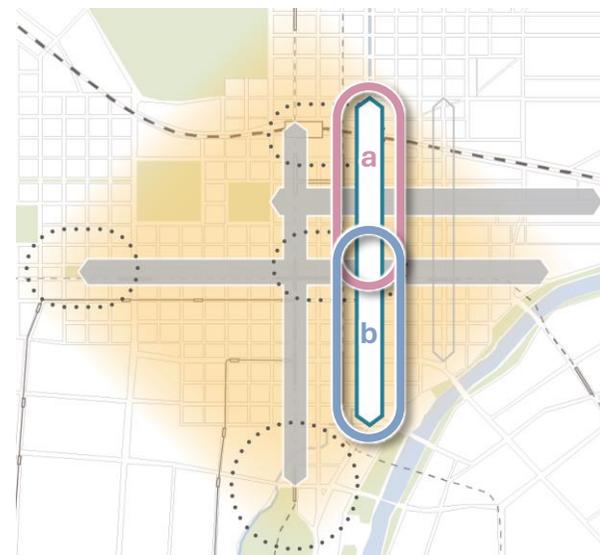
(3)つながりの軸／創成川通

<p>これまでの 主な取組・ 成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 創成川公園・狸二条広場の整備・活用 ➢ 都心アクセス道路の事業推進 	<p>今後の 課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 都心アクセス道路の整備と新幹線の開業を見据えた更なる魅力の向上
-------------------------------	--	-------------------	---

<p>目指す姿</p>	<p>広域から都心へのアクセスを支えながら、東西のまちのつながりを生む軸</p>
-------------	--

取組の方向

<p>軸全体 (共通)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創成川と呼応する潤い・落ち着きのある空間の形成 ・ 東西市街地をつなぎ、回遊性を向上 ・ 都心アクセス道路の整備によって広域からのアクセス性を向上
<p>a</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 札幌駅交流拠点と調和がとれた街並み・眺望の形成 ・ 新幹線開業を見据えたパブリックスペースの充実
<p>b</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親水空間を活かして整備されたパブリックスペースの多様な利活用



4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.1 骨格軸・展開軸

(4)うけつぎの軸／北3条通

これまでの
主な取組・
成果

- ▶ 北3条広場の整備・活用
- ▶ 創成川以東の電線地中化等による景観の向上

今後の
課題

- ▶ 新幹線の開業を見据えた東西方向の回遊性の向上

目指す姿

東西の回遊を促す、歴史や文化の魅力あふれる街並みをうけつぐ軸

取組の方向

軸全体
(共通)

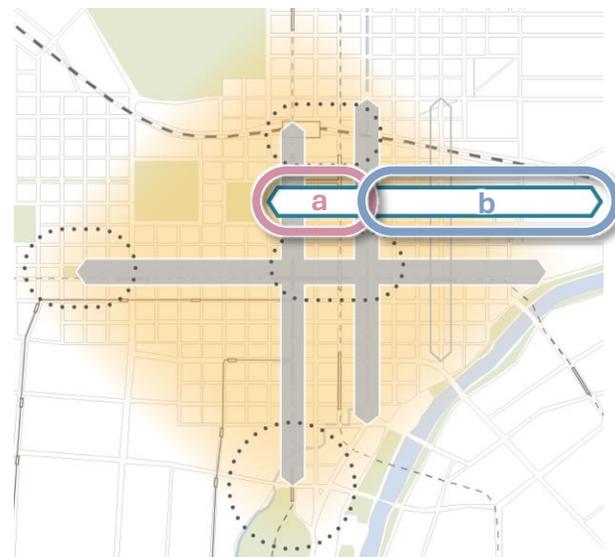
- 沿道の歴史資源と調和した街並みの形成
- 東西方向の快適な移動環境の充実
- 地域資源を活かして整備されたパブリックスペースの多様な利活用

a

- にぎわいの軸からの活気・回遊の波及

b

- 苗穂駅方面への活気・回遊の波及



4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.1 骨格軸・展開軸

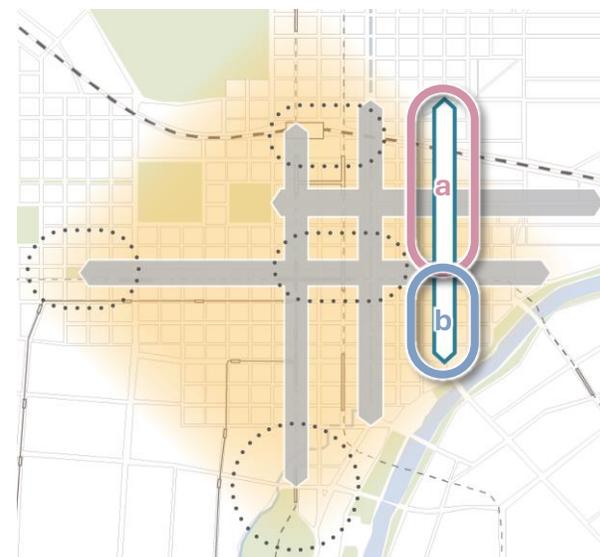
(5)いとなみの軸／東4丁目通

これまでの 主な取組・ 成果	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 沿道を含む創成東地区の地区計画策定 ➢ 歩道拡幅・電線地中化・クランク解消に向けた事業推進 ➢ 沿道における民間開発の進展 	今後の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 都市計画道路の再整備に伴うにぎわい創出と回遊性の向上
----------------------	---	-----------	--

目指す姿	交流と活気にあふれる沿道から職・住・遊のいとなみを感じる軸
------	-------------------------------

取組の方向

軸全体 (共通)	<ul style="list-style-type: none"> • 通りと沿道が一体で街並み、潤いを感じるみどりを創出 • 道路整備を通じて、快適な移動空間、コミュニティを育むパブリックスペースを創出
a	<ul style="list-style-type: none"> • 市民・企業・行政などの協働による、道路空間を含むパブリックスペースの多様な利活用 • クランク解消により生まれる空間の有効活用 • 面的なエネルギー利用を推進
b	<ul style="list-style-type: none"> • まちづくりの取組と連携したパブリックスペースの有効活用



4.2.2 交流拠点・展開拠点

(1) 札幌駅交流拠点

これまでの
主な取組・
成果

- 新幹線の開業を見据えたまちづくり計画の策定
- 北5西1・2地区市街地再開発事業等の事業推進
- 創成川東西市街地の連続性強化に向けた検討

今後の
課題

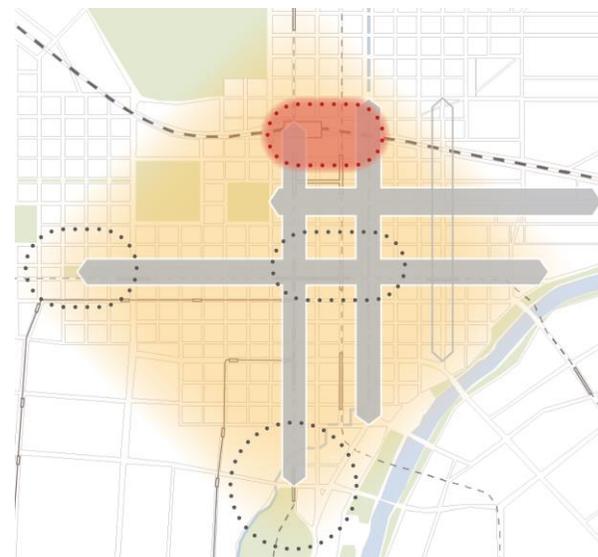
- 新幹線整備と連動した周辺再開発の着実な推進
- 長期化する工事期間中の機能確保や賑わいの維持
- 交通結節機能の強化と、歩行環境の充実

目指す姿

広域的な交通網が結節する札幌の玄関口として国際競争力を先導する拠点

取組の方向

- 骨格軸との連動により、札幌の玄関口にふさわしい魅力的な空間形成
- 国際水準の高次都市機能の集積
- 新幹線の開業を見据えた交通結節点の強化
- 低炭素で強靱なまちづくりの推進
- 広域交通結節点と都心内の移動手段との接続の円滑化
- 創成川東西市街地の連続性強化
- パブリックスペースの多様な利活用の促進
- エネルギーネットワークの強化
- 来街者の安全確保、経済活動の機能維持



4.2.2 交流拠点・展開拠点

(2)大通・創世交流拠点

これまでの
主な取組・
成果

- 創世スクエア開業に伴う新たな交流拠点機能の創出
- 「大通及びその周辺のまちづくり方針」の策定(西Aゾーンに位置づけ)
- 大通西4南地区市街地再開発事業の推進
- 市役所本庁舎のあり方について検討開始

今後の
課題

- 骨格軸や地域資源との連携による更なる象徴性の創出
- 骨格軸を介した東西市街地の連携強化
- 官民連携によるまちづくりの推進

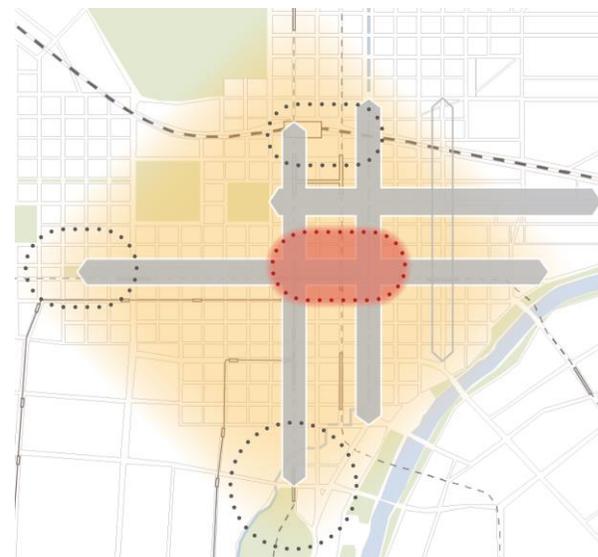


目指す姿

はぐくんできた価値と新しい価値が融合した世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点

取組の方向

- 複数街区での連鎖開発と相互連携を通じた新たな象徴空間の創出
- 都心の回遊性を高める交通環境の構築
- 魅力的な滞在空間や歩行者動線の創出
- 街区間の連携による先進的な脱炭素化・強靱化の取組の展開
- 地域資源(観光、文化・芸術、交流施設等)と連携した都市文化拠点の形成による象徴性の創出



4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.2 交流拠点・展開拠点

(3)大通公園西展開拠点

現況・動向

- 「大通及びその周辺のまちづくり方針」の策定(西Cゾーンに位置付け)
- まちづくりガイドラインの策定に向け検討中
- 市有地(芸文館跡地)の利活用の検討

課題

- 地域の資源や特性をさらに生かす取組の必要性
- はぐくみの軸のまちづくりの効果の「軸」外側への波及

目指す姿

都心西側の回遊拠点を形成し、美しいみどりや歴史・文化芸術を生かした多様な交流をはぐくむ拠点

取組の方向

- 地域資源(みどり、歴史文化・芸術)やまちの特性を活かしたまちづくりや市有地の利活用
- 大通公園、沿道街区、地域資源などが調和し、一体感を感じられる街並みの形成
- はぐくみの軸の賑わいを都心西側やその周辺につなぐ歩いて回れるネットワークの強化



(4)中島公園駅展開拠点

現況・動向

- 「新MICE施設整備基本計画」の策定(H30)(再検討中)
- まちづくり基本構想の策定(R3)
- 中島公園のあり方検討の実施(R5~6)
- まちづくりガイドラインの策定に向け検討中

課題

- 回遊性の向上とにぎわいの創出
- 地域資源の魅力向上とそれを生かした取組の展開
- MICE開催を支える機能の充実
- まちづくりの体制構築

目指す姿

地域に培われた歴史・文化と新たな集客・交流機能が調和した都心南端の拠点

取組の方向

- 駅前通への通りに開かれた商業・交流機能などの誘導と街並み景観に配慮した空間の高質化
- 鴨々川や寺社などの地域資源を生かした歩いて楽しめる空間の形成
- 駅前通南端からの回遊性の向上
- 新MICE施設と中島公園北口の魅力的な空間の創出
- MICE開催に対応した機能の誘導やMICE参加者が楽しめる環境の充実

序章 計画策定の背景

1章 計画の目的と位置付け

2章 現状と課題

3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の基本構造

3.1 理念と目標

〈理念〉

世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心

論点1

〈目標〉

部会で検討

目標 1

多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心

初出

目指す姿(成果指標)

目標 2

冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

目指す姿(成果指標)

目標 3

気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靱化が進む都心

目指す姿(成果指標)

4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向

(1)目標1の実現に向けた取組の方向

初出

(2)目標2の実現に向けた取組の方向

(3)目標3の実現に向けた取組の方向

論点2

3.2 都心の基本構造

再整理

部会で検討

(1)骨格構造

都心まちづくりを牽引する中核的な軸と拠点



(2)エネルギー施策のエリア区分

地域特性に応じたエネルギー施策を進めるエリア



4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

骨格軸

展開軸

交流拠点

展開拠点

5章 重点的に進める取組

初出

6章 取組の進め方

仕組みと体制

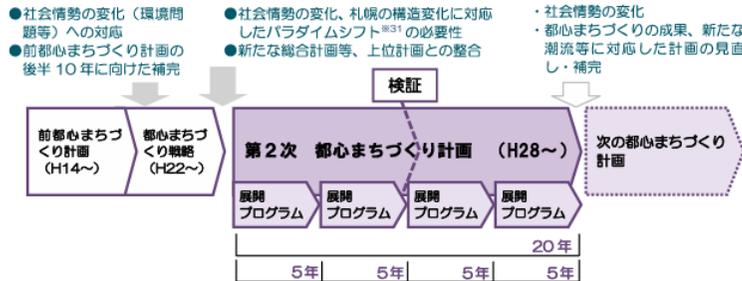
連鎖的な取組の展開

論点3

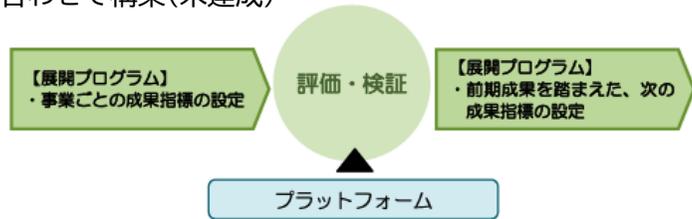
6.1 これまでの計画における取組の進め方

(1)第2次都心まちづくり計画

- 展開プログラム:短期の展開プログラムの積み重ねによる成長管理
- 計画の見直し・更新:中間期における検証と見直し



- 展開プログラムのモニタリング
成果指標の設定・効果検証の仕組みを都心プラットフォームの組成に合わせて構築(未達成)



(2)エネルギーマスタープラン

- 札幌都心エネルギープラン推進委員会の設置



- 計画の管理・見直し
札幌都心エネルギープラン推進委員会を中心に、まちづくりの進展、社会情勢や技術革新等の状況を踏まえながら進行管理

- 明確な成果指標の設定

目標 2050年のCO₂排出量を2012年比で80%削減
 ≪目標排出量: 175,700t-CO₂/年≫

(3)成果と課題

- 成果
 - ・民間事業者、専門家、地区関係者、行政など多主体が参加する進行管理の体制が構築された(都心エネルギープラン推進委員会)
 - ・社会経済情勢の変化へ対応できる検証と見直しの仕組みが構築された(展開プログラムの位置付け、中間期の検証)

- 課題
 - ・都心まちづくり計画において、明確な成果指標が設定されていない
 - ・両計画で一体的な進行管理ができていない

両計画を統合し、都心まちづくりの総合性と一体性の確保・強化を図る必要性がある

6.2 これからの取組の進め方

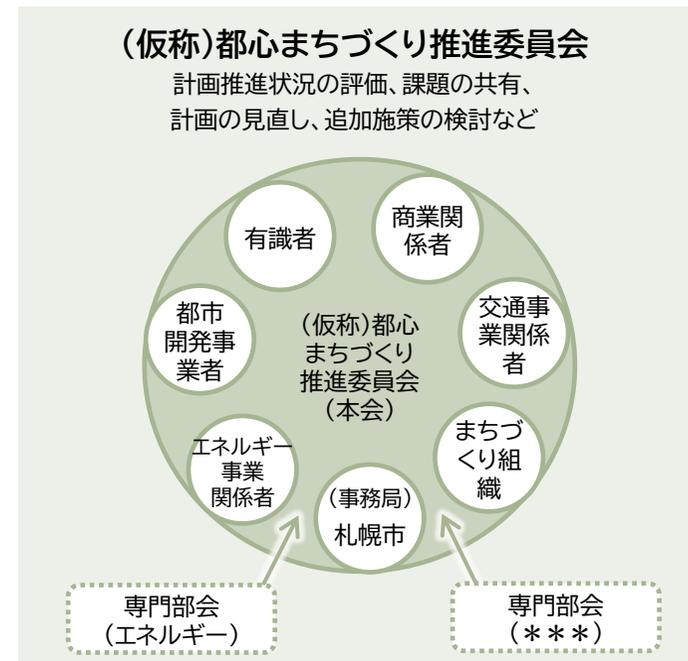
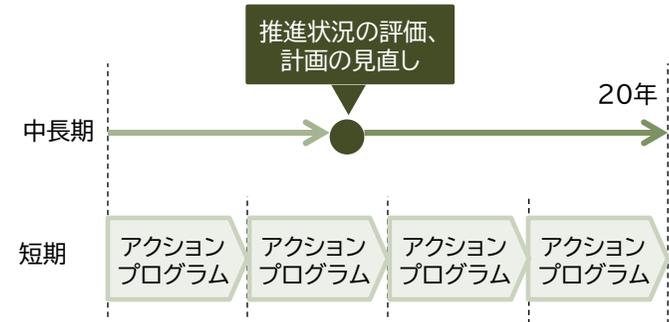
6.2.1 仕組みと体制

多様な主体が、都心全体の目標・ビジョンとして本計画を共有し、都心まちづくりのマネジメント機能を担っていくことを目指します。

- 具体的取組・施策をまとめた(仮称)アクションプログラムを策定
 - おおよそ5年ごとに更新し、社会経済情勢の変化へ対応
 - 推進委員会で協議・検討し、官民の取組を反映

- 目標及び取組に応じた指標を設定
 - 適切な進行管理を強化

- (仮称)都心まちづくり推進委員会を設置
 - 多様な主体が参画し、指標をはじめ都心の状況の把握、計画の進捗状況の評価、新たな課題を共有する場として活用
 - 都心まちづくりの総合性と一体性を強化



6.2.2 連鎖的な取組の展開

推進委員会で全体をマネジメントしながら、具体的取組は、以下の視点で官民協働を促します。
取組が連鎖することで、社会経済情勢の変化にも機動的に対応できる都心まちづくりを目指します。

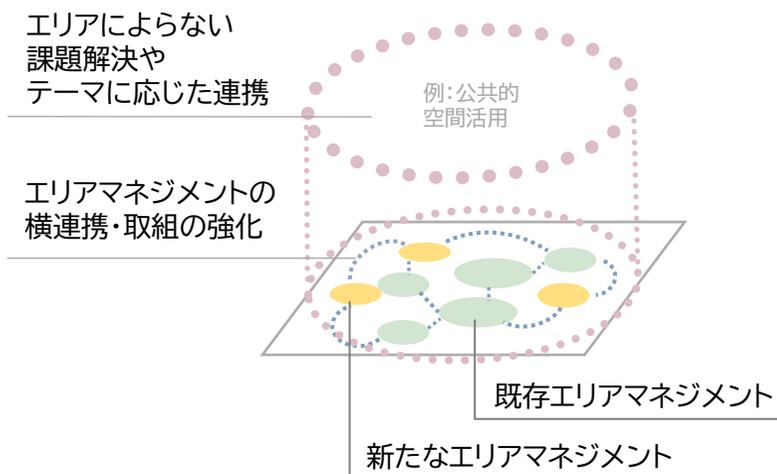
① まちづくりとエネルギー施策の総合性・一体性の向上

- 札幌都心E！まち開発推進制度に基づく事前協議の機会等を通じて、建物の脱炭素化とエリア価値の向上の双方につながる良好な開発を誘導・調整するなど、まちづくりとエネルギー施策の総合性・一体性の向上を図ります。



② エリア別・テーマ別の取組のさらなる充実

- 新たなエリアにおけるエリアマネジメントの育成や、エリア相互の連携を支援するとともに、エリアに即した開発を地域が誘導する取組や、エネルギー・防災など新たなテーマへの取組を支援します。
- エリアを横断あるいは都心全体を対象とした、民間主体による課題解決やテーマに応じた取組に対しても、支援・連携を図ります。



◎本日、ご議論いただきたいこと

論点1 目標の実現に向けた取組の方向について

論点2 骨格構造の強化に向けた取組の方向について

論点3 取組の進め方について